

平成19年度 調査研究事業報告書

# 「生涯学習施設における学習講座の 実施状況と人材の活用に関する調査」

平成20年3月

Mie lifelong learning center   
三重県生涯学習センター



## はじめに

近年我が国でも、「生涯学習」についての日常的な市民レベルの論議や、学習・交流機会への主体的参画が多くみられるようになってきました。しかしながら、その内容や「学び」の動機・形態等は極めて多義・多様であり、理想とする「生涯学習社会」の構築については、必ずしも順調に推移しているとは言い難い実態もあるように思えます。

時あたかも国においては、先日（平成20年2月19日）、文部科学省の諮問機関である中央教育審議会から、「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」との答申が公表されました。そこでは、先の教育基本法改正の趣旨をベースにして、今日の地域コミュニティにおける社会構造の変化に対応し、国民ひとり一人が生涯にわたり多様な選択を行いながら主体的に自らの人生設計に取り組み、社会の変化や要請にも対応していくことができるように、総合的な「知」の循環社会を構築することの必要性和重要性が強調され、そのための新たな学習需要が明示されています。

今日の、高齢者や子ども達を取り巻く社会状況の大きな変化や、「団塊世代」の大量退職など社会環境の激変の中であって、自らの課題を見つけ考えながら実践していく力や、身につけた知識や技能を活用しながら自らの人生および地域社会の課題を解決していく力、さらには他者との関係を構築していく力等々の、豊かな人間性を含んだ総合的な「知」の育成が、私たち一人ひとりに求められています。また、学習を通じての社会とのつながりや、社会事業への主体的な参画や社会貢献活動の推進などの市民活動にとって、条件整備としての「生涯学習社会」の構築は、不可欠な要素のひとつであるといえるでしょう。

このような現状をふまえて、当センターにおける本年度の調査・研究では、「生涯学習施設における学習講座の実施状況と人財の活用に関する調査」と題して、県内関連施設へのアンケート調査と県外施設での実情調査を実施いたしました。これらの調査結果から、県内の生涯学習施設における学習講座の実態と、地域における人的資源（本調査研究においては「人財」と定義しました）の活用状況についての分析を行い、より活発・有効な人財活用を図るための課題等を明確にしながら、各市町での社会教育・生涯学習施設の果たすべき今後の役割等についても考察していきたいと考えています。

この調査研究報告書が、本県における生涯学習・社会教育機関の今後の在り方について、より多くの皆さんとともに考えていくための一助となり、本県生涯学習の振興に寄与することを願って、関係機関の皆様にも是非ご一読いただくことを期待するところであります。

本調査研究にご協力いただきました本県関係機関の皆様と、実情調査にお応え頂きました県外生涯学習施設の皆様方に、心より感謝申し上げます。

平成20年3月

三重県生涯学習センター所長

星 野 茂

# 目次



## 調査の概要

- 1 調査の目的 . . . . . 1
- 2 実施概要 . . . . . 1

## 調査結果

- 1 753施設に実施した調査の結果 . . . . . 2
- 2 15施設に実施した調査の結果 . . . . . 4
- 3 考察 . . . . . 11
- 4 全国事例の紹介 . . . . . 24

## まとめ

- 1 関係機関と連携する . . . . . 28
- 2 地域にとって魅力ある講座を提供する . . . . . 29
- 3 よりよい人財育成 そして活用のために . . . . . 31
- 4 生涯学習を地域へ広げていくために . . . . . 34

## 付録

- ・みえ生涯学習ネットワーク（イメージ図説）
- ・県内15施設へのアンケートと実施講座の紹介  
『生涯学習施設における学習講座の実施状況と人財の活用に関する調査』
- ・三重県生涯学習情報提供システム登録施設へのアンケート  
『県内施設への調査用紙』

## 調査の概要

### 1 調査の目的

子どもたちを取り巻く状況の変化や、「団塊世代」の大量退職など大きく社会が変容する中、「学習」を通じて社会とつながり、社会的な事業に参画したり、何らかの社会貢献に寄与したいという人々の意欲が高まりつつある。生涯学習は、現代社会に生きるすべての人々にとって、欠かすことのできないものとなっている。

本調査は、県内の生涯学習施設における学習講座の実施状況と、地域の人的資源（＝人財）の活用状況についての実態調査を通して、より活発な人財活用のための課題や問題点を明確にし、また、全国的な先進事例についても調査し、地域性を活かした講座や人財の育成、またはその成果を活かした活動の実践例を紹介するとともに、それらの成果を地域社会に還元していくものとして「これからの生涯学習講座」のモデル事例等を開発・提供し、本県の生涯学習振興の一助となることを目的とする。

### 2 実施概要

- |               |       |   |
|---------------|-------|---|
| (1) 対象者       | 県内調査  | 三重県内の生涯学習施設 15ヶ所<br>三重県生涯学習情報提供システムに登録されている施設 |
|               | 県外調査  | 島根県立生涯学習推進センター<br>その他全国事例                     |
| (2) 調査方法      |       | アンケート調査（郵送等による配布・回収）<br>現地視察                  |
| (3) 調査対象数     | アンケート | 756件  |
|               | 現地視察  | 1件  |
| (4) アンケート回収結果 | 407件  | 回収率 53.8%                                     |

調査機関 財団法人三重県文化振興事業団 三重県生涯学習センター（所長 星野 茂）  
監修 三重県教育委員会事務局 生涯学習室（室長 木平 純子）

#### 本文中の記載について

「人財」……この調査では、人を財産として考え、「じんざい」という言葉を、あえて「人材」ではなく「人財」と表記する。

## 調査結果

この調査結果は、三重県生涯学習センターが管理運営する三重県生涯学習情報提供システムに登録されている県内753施設(有効回答率54.1%)に、「施設の状況」及び「学習講座の実施状況」について、また、県内の生涯学習施設から無作為に抽出した15施設(内3施設は情報システムに登録されていない)に、「学習講座の実施状況」の詳細と「人材の活用」についてアンケート調査を実施し、それらの回答から導き出した結果である。

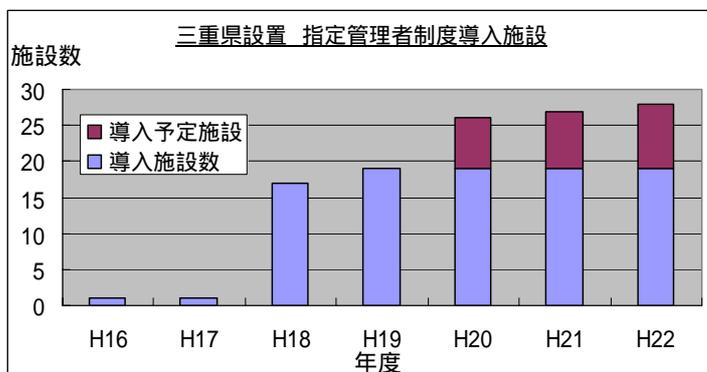
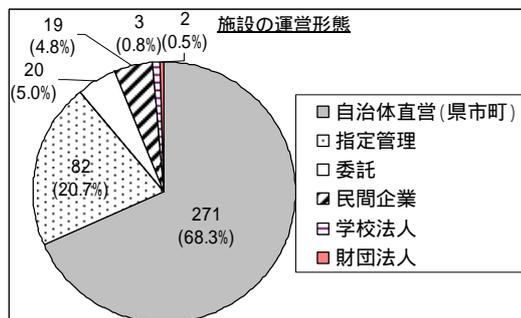
### 1 753施設に実施した調査の結果

#### (1) 施設の状況

##### 施設の運営形態

調査施設の運営形態としては表1-1、自治体直営271(68.3%)、指定管理82(20.7%)、委託20(5.0%)、民間企業19(4.8%)、学校法人3(0.8%)、財団法人2(0.5%)となっており、自治体直営による運営が最も多い。

表1-1



しかし、地方自治法の改正に伴い、指定管理者制度を導入する自治体が増加傾向にあり、今後の施設運営のあり方に大きく影響してくると思われる。その例として、三重県が設置している施設の指定管理者制度の導入状況を表1-2に示す。

表1-2

##### 職員数

平成18年度の各施設の職員数を調査した結果、0~5人が279施設(72.8%)、6~10人が70施設(18.3%)、11~20人が22施設(5.7%)、21~30人が5施設(1.3%)、31~40人が3施設(0.8%)、41~50人が2施設(0.5%)、51人以上が2施設(0.5%)であった。表1-3

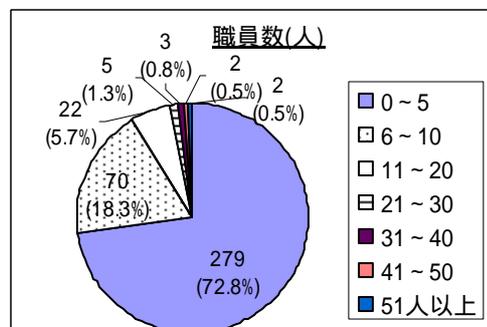


表1-3

0~5人の職員数で運営している施設が最も多く、職員数と施設数の関係が反比例している結果が読み取れる。

### 施設稼働日数

平成18年度の稼働日数は、0日～30日  
 まだが11(5%)、31日～60日までが  
 3(1%)、61日～100日までが3(1%)、  
 101日～150日までが7(3%)、151  
 日～200日までが11(5%)、201日～  
 250日までが28(12%)、251日～  
 300日までが51(22%)、301日～  
 350日までが60(25%)、351日～  
 365日までが61(26%)である。表1-4

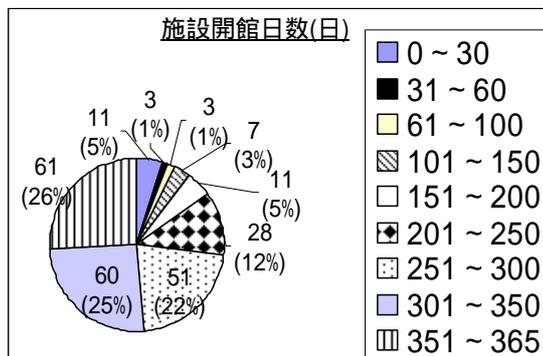


表1-4

この結果、開館日数100日以下の施設が全体の1割(17%)ほどあり、遊休化した施設  
 がかなり存在することがわかる。

### (2) 学習講座の実施状況

#### 自主事業の有無

自主事業の実施状況は、実施している施設が  
 143で全体の59%、実施していない施設が  
 101で41%となり、自主事業を実施している  
 施設が半数以上を占めている。表1-5

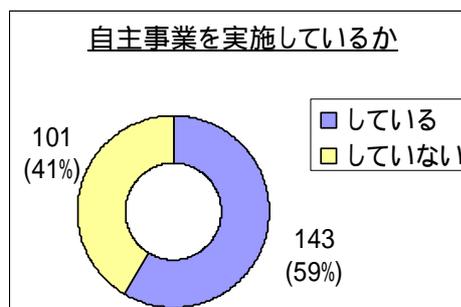


表1-5

#### 自主事業の内容

で「実施している」と回答した施設に自主  
 事業の内容を、講座・研修・映画会・展示・発  
 表会・その他の6項目に分類したところ、表  
 1-6のような回答になった。この中で「講  
 座」数は、185で全体の45%を占めており、  
 多くの施設で自主事業として講座を実施して  
 いることが分かる。

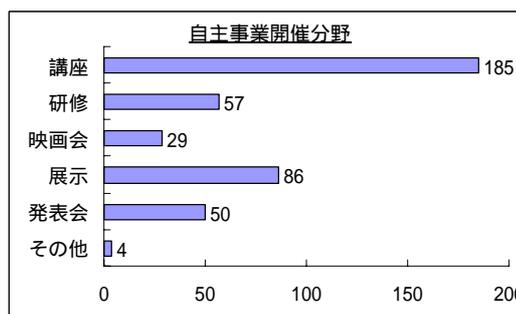


表1-6

以上の調査結果から、県内の施設が行う自主事業については、「講座」としての実施が最  
 も多いことが分かった。次は、「講座」内容の詳細について、無作為に抽出した県内15施  
 設への調査から得られた結果を示す。

## 2 15施設に実施した調査の結果

(1) 平成18年度に実施された各講座について

「男性」に焦点を置いた講座の実施について

実施している施設は1(7%)、実施していない施設は14(93%)である。表1-7

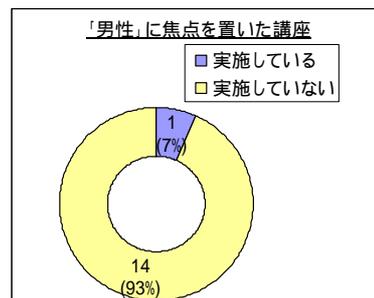


表1-7

「女性」に焦点を置いた講座の実施について

実施している施設は2(13%)、実施していない施設は13(87%)である。表1-8

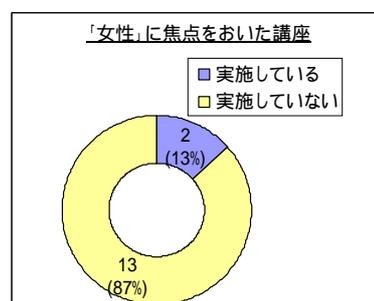


表1-8

「子ども」及び「青少年」を対象とした講座の実施について

実施している施設は11(73%)、実施していない施設は4(27%)である。表1-9

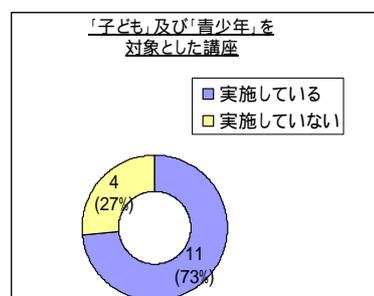


表1-9

「高齢者」を対象とした講座の実施について

実施している施設は3(20%)、実施していない施設は10(67%)である。表1-10

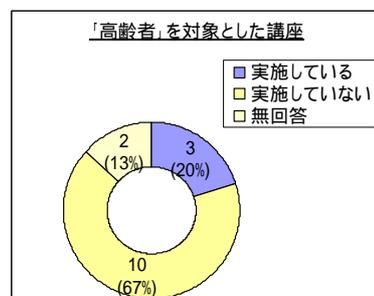


表1-10

「親子参加」を目的とした講座の実施について  
 実施している施設は9(60%)、実施していない施設は  
 6(40%)である。表1-11

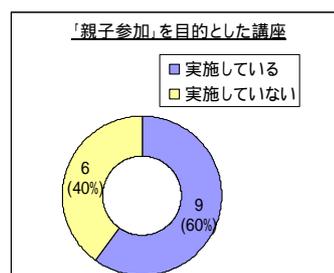


表1-11

「異世代間交流」を目的とした講座の実施について  
 実施している施設は2(13%)、実施していない施設は  
 11(73%)である。表1-12

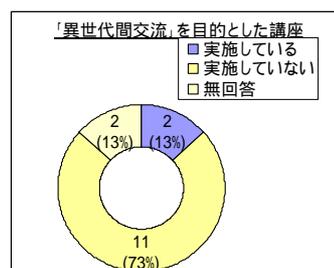


表1-12

「団塊の世代」を対象とした講座の実施について  
 どの施設も「団塊の世代」に焦点を置いた講座は実施さ  
 れなかった。表1-13

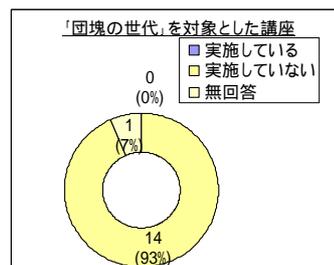


表1-13

「地域学」など地域の特色を活かした講座の実施に  
 ついて  
 実施している施設は9(60%)、実施していない施設は  
 6(40%)である。表1-14

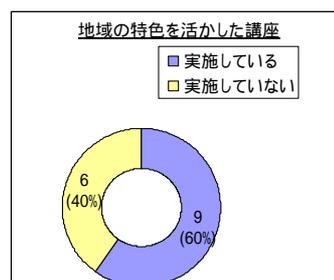


表1-14

以上の結果から、「子ども」や「青少年」を対象とした講座や、「親子参加」を目的とした講座、「地域学」など地域の特色を活かした講座は半数以上の施設で実施されているが、「男女別」「団塊世代」「高齢者向け」や「異世代間交流」など、明確に対象年代等を設定した講座は、ほとんど実施されていないことが分かる。

(2) 人材活用のために取り組んでいる内容について  
 施設または地域での人材活用を目的とした取り組み  
 実施している施設は8(53%)、実施していない施設は5  
 (33%)であった。表1-15

この結果から、半数以上の施設が人材の活用に取り組んで  
 いることが分かる。既存のボランティア団体を中心に活用し  
 ている施設が多いが、その中でも、その土地の地域性や環境  
 に根ざしたボランティアの活用が多く見受けられる。表1

- 16

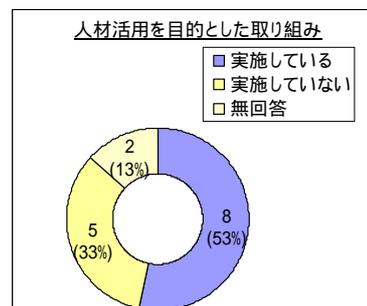


表1-15

人材活用のために取り組んでいる施設とその活動内容

表1-16

施設名	活動内容
紀宝町生涯学習センター まなびの郷	まなびの郷運営サポーター（ボランティア）による 各種講座の開催
三重県立熊野少年自然の家	自然体験の中からボランティアガイド等が養成され ている。
伊勢市小俣図書館	ボランティア団体によるおはなし会や研修会の開催
斎宮歴史博物館	斎宮ガイドボランティアによる史跡内ボランティア ガイドの実施
みえこどもの城	「みえボラと遊ぼう！2006」 ボランティア主催のイベントで簡単工作・折り紙・ ゲームなどを実施
名張市公民館	世代間交流を目的とした施設の開設の準備とボラン ティア
四日市市なやプラザ	NPO スキルアップ講座
長島ふれあい学習館	星見会、天文講座、天文教室

ボランティアの養成を目的とした講座

実施している施設は2(13%)、実施していない施設は  
 12(80%)である。表1-17

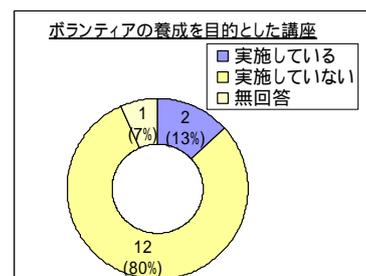


表1-17

施設名	受講者数	内容
斎宮歴史博物館	10名	「斎宮ガイドボランティア養成講座」 明和町観光協会傘下の斎宮ガイドボランティアと協力し、新人養成のための講座を行なった。 対象は、入会希望者、内容はボランティア解説の内容、現場体験などの実践的なものである。
鈴鹿市考古博物館	計140名	「歴史講座」 郷土の歴史や文化に対する認識を深めてもらうため、考古学の観点での講義、また体験学習や現地研修も織り交ぜた、全6回の連続講座。 希望者は博物館サポーター(市民学芸員)として登録し、博物館行事にスタッフとして参加してもらう。

#### 資格取得を目的とした講座

実施している施設は1(7%)、実施していない施設は13(86%)である。表1-18

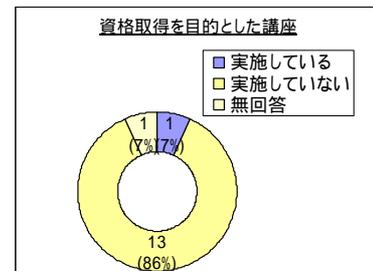


表1-18

施設名	受講者数	内容
三重県立 熊野少年自然の家	20～ 30名	介護福祉士受験支援講座

#### すでに活動している人財の更なる育成(スキルアップ等)を目的とした講座

実施している施設は2(13%)、実施していない施設は12(80%)である。表1-19

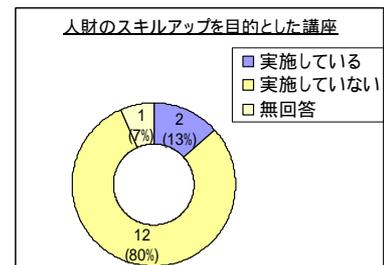


表1-19

施設名	受講者数	内容
斎宮歴史博物館	20名	講座ではない(非公開)が、ボランティアのスキルアップのための定例情報交換・勉強会を行なっている。
四日市市なやプラザ	10名	マネジメントスキルアップ講座

～ で講座を実施した施設を見ると、広義での「ボランティア」というより、施設のサポーターを養成支援する内容のものが多く実施されている。

すでに活動している地域の団体・グループと連携・協働した講座

実施している施設は5(33%)、実施していない施設は10(67%)である。表1-20

実施された講座内容は、以下のとおりである。

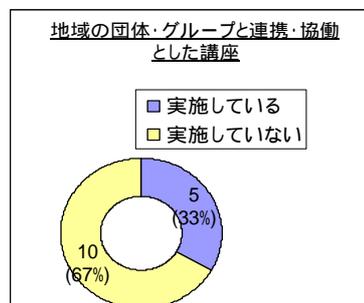


表1-20

表1-21

施設名	受講者数	内容
紀宝町生涯学習センター まなびの郷	69名  131名	「昔の遊び体験&電気のたいけんをしよう」 竹馬・竹とんぼ・ゴムとび・こま回しなどの遊び体験と、関西電力による電気実験。 「サポーターまつり」 まなびの郷サポーター結成3周年を記念して開催。年表・子どもサポーターの発表・工作物の展示など(その他7講座)。
NPO 法人五十鈴塾	20～40名	企業が企画しているまつりや市などに合わせて展示や講演などを実施。 ・節分 節分の由来講座 ・ひなまつり 貝合せの展示 ・夏待ち祭り ゆかたなどの展示
斎宮歴史博物館	123名 101名  154名	「くれたけ講座」 「竹の文化講座」 博物館友の会、ボランティア等館関係者や地域で活動するグループと連携して開催。 「絵馬レクチャー講座」 三重県生涯学習センターとの連携事業。
みえこどもの城	13,084名  316名	「舞台スペース事業」72企画 マジックショー、人形劇、コンサートなど 「ものづくりフェア」 技能士会との協働事業
四日市市なやプラザ	15名	NPO 会計講座

詳しく内容を見ていくと、既存ボランティアとの協働はもちろんだが、企業との連携・協働事業も行なわれている。その反面、他の施設との連携・協働事業は少なく、単独施設での事業実施がほとんどであった。

人財育成講座の受講者の学習成果を活用できる機会の創出の取り組み

実施している施設は8(53%)、実施していない施設は5(33%)である。表1-22

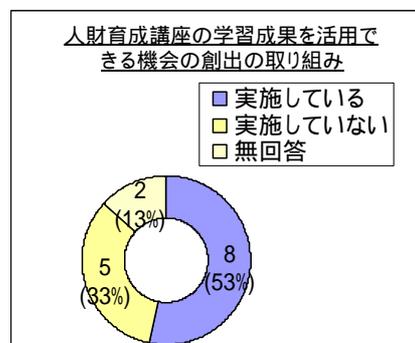


表1-22

各施設とも講座受講者に活躍の場を提供することに前向きであるが、今後どのような方法で更なる人財活用を図っていくのか、また、取り組みを実施していない施設について、その取り組みを困難にしている理由に関する回答はそれぞれ以下のとおりである。

- 1 受講者の学習成果を、活用できる機会の創出の取り組み内容について(現状)  
表1-23

施設名	内容
紀宝町生涯学習センター まなびの郷	講座受講者によるサークルの設立
特定非営利活動法人 五十鈴塾	書道や篆刻・折り紙など、続けて講座に参加している受講者のために、発表展示会を開催している。
斎宮歴史博物館	明日の斎宮を考える会など、地域参加型プロジェクトに活用できるように取り組んでいる。
鈴鹿市考古博物館	「夏休み子ども体験博物館」で、勾玉・土笛づくりなどで、講師ボランティアとして参加していただいた。
四日市市なやプラザ	なやプラザの経理やNPO団体の会計処理の手伝い。

- 2 今後、どのような方法で人財活用を図っていくか、具体案について(今後の展開)  
表1-24

施設名	内容
紀宝町生涯学習センター まなびの郷	講師の養成については、各地で行なわれている講習会に参加、また講師派遣により技術を取得させる。

三重県立 熊野少年自然の家	文化・自然・人、様々な教育資源を活用し、子どもたちの自然活動に生かす。
鈴鹿市考古博物館	体験講座や展示説明でのボランティア活動のほか、博物館サポーターとして、博物館講座の企画・運営の手助けをしてもらいたい。

人財活用の機会の創出を困難にしている具体的な理由について

表 1 - 2 5

施設名	内容
嬉野生涯学習センター (図書館と公民館を併設)	資格取得・ボランティア養成等の講座に関しては他の部署で開催しており、その際に会場を貸しているというのが現状である。 他の部署で行っていない趣味的講座を公民館で開催している。
史跡旧崇廣堂	指定管理者制度が導入され、短期間で指定管理者が変わる現状では難しい。
名張市公民館	取り組みたいとは思っているが、時間的な余裕と具体策がないため。
四日市市 なやプラザ	事業予算がない。
藤原岳自然科学館	スタッフ不足

人財の活用に本格的に取り組めないのは、予算や職員の不足、運営形態からくる問題という回答が目立った。

### (3) まとめ

これらの回答から、どの施設も「施設密着型」「地域密着型」の人財の活用に取り組んでいることが見受けられる。講座受講者がサークルを設立したり、地域参加型プロジェクトへの活用を図ったり、施設の企画・運営に携わってもらったりと、継続的に活動できるような取り組みが目立った。その一方で人財の養成・スキルアップを目的とした講座や、地域の団体・グループとの連携・協働を実施している施設は少ない。新たにボランティアを養成したり、連携・協働をして新しく何かを作り出していくことが、いかに難しいかが示されている。

### 3 考察

#### (1) 考察の観点

今回の調査で集計した「学習講座の実施状況」と「人財の活用」に焦点を当て、三重県の様々な統計・資料と比較しながら、多角的に考察する。

#### (2) 考察

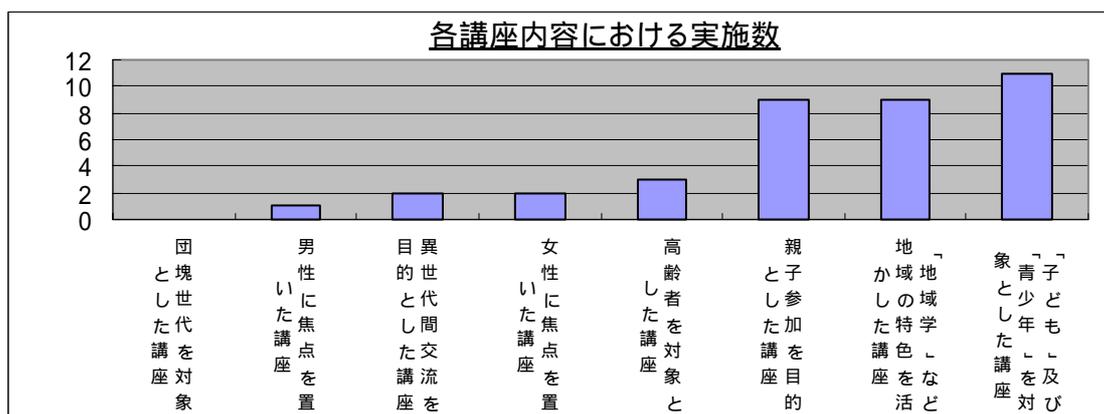
「学習講座の実施状況」

15施設へのアンケート結果に見られる実施講座について、まず下記表を見ていただきたい。

#### 平成18年度に実施された各講座について

講座内容	実施した	実施していない	無回答
「男性」に焦点を置いた講座	1	14	0
「女性」に焦点を置いた講座	2	13	0
「子ども」及び「青少年」を対象とした講座	11	4	0
「高齢者」を対象とした講座	3	10	2
親子参加を目的とした講座	9	6	0
異世代間交流を目的とした講座	2	11	2
団塊世代を対象とした講座	0	14	1
地域学など地域の特色を活かした講座	9	6	0

表2 - 1

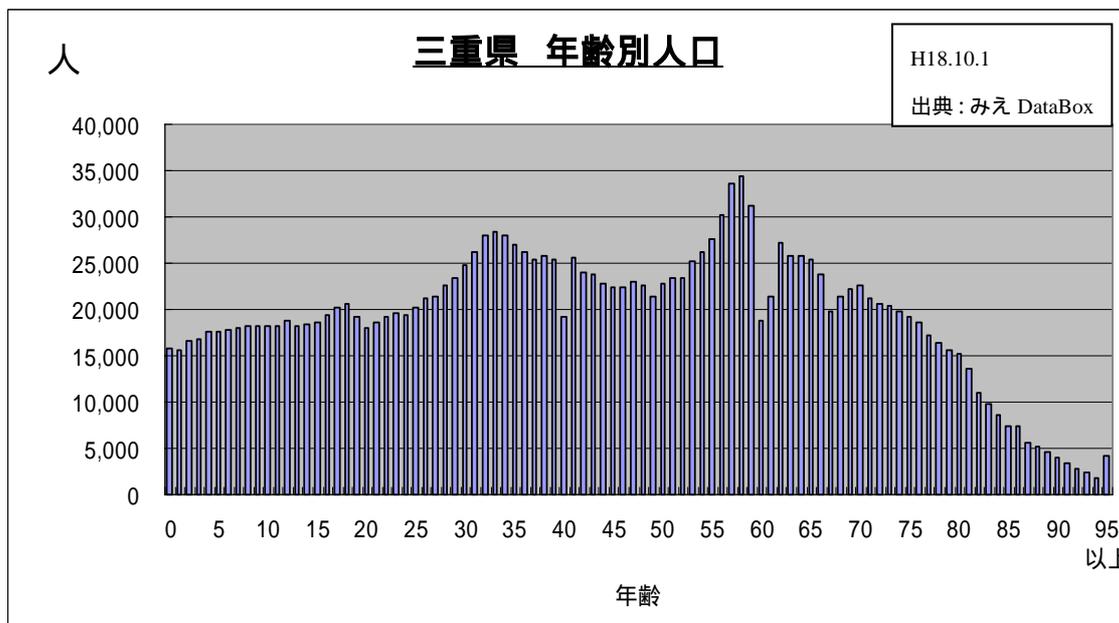


実施数が多い講座は表2 - 1のグラフで明らかであるが、着目したいのは、近年「大量退職」の問題が社会的に注目されている「団塊世代」向けの講座が実施されていないという点である。生涯学習の観点から、退職後の「生きがい」についてどのように提案していくか取りざたされているだけに、対象者の年齢が近い「高齢者」を対象とした講座と併せて着目し考察する。

1) 団塊世代・高齢者を対象とした講座について

まず、三重県内の年齢別人口数を示す表2-2を見ると、やはり「団塊の世代」と呼ばれる現在58～60歳の人口が最も多い。

表2-2



このグラフから、受講対象者は県内に数多く存在することがわかり、退職後の生きがいを求める団塊世代を対象とした講座を開催する必要性を感じる。しかし、全ての団塊世代がただちに定年退職するとは限らない。特に第1次産業と呼ばれる「農業」「林業」「漁業」の従事者においては、体力が続く限り仕事を続けるという方が多い。次に、三重県内の第1次産業にどれほど団塊世代以上が携わっているかを、全国従事者数、人口50万人以上の近郊大都市（三重県に近い名古屋市と大阪市の2都市を選定）の従事者数と比較しながら見ていきたい。

表2-3

まず、表2-3で三重県と名古屋市・大阪市の第1次産業の従事者数を比較すると、三重県の第1次産業への従事者の多さが際立つ結果となった。

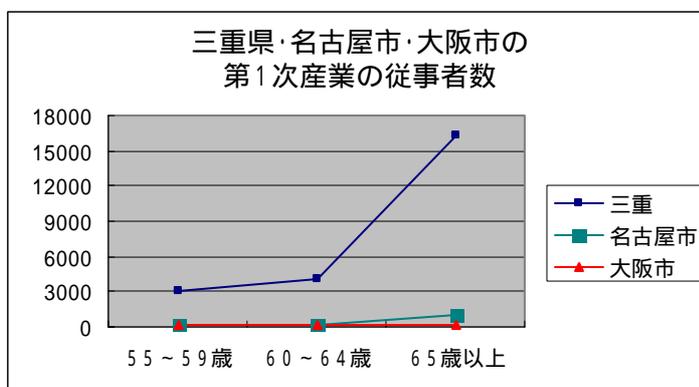
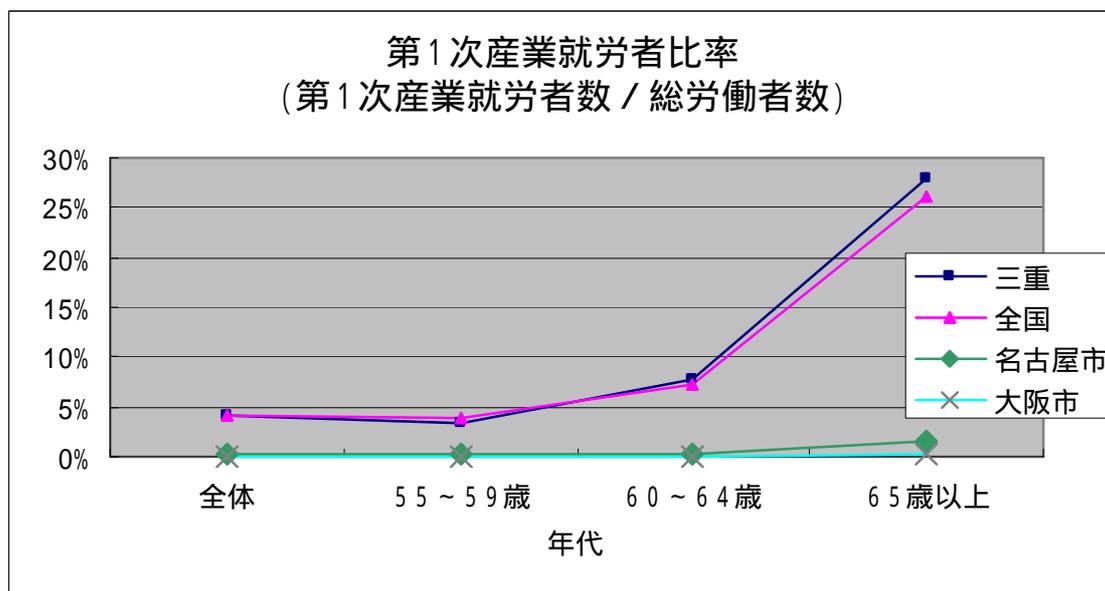
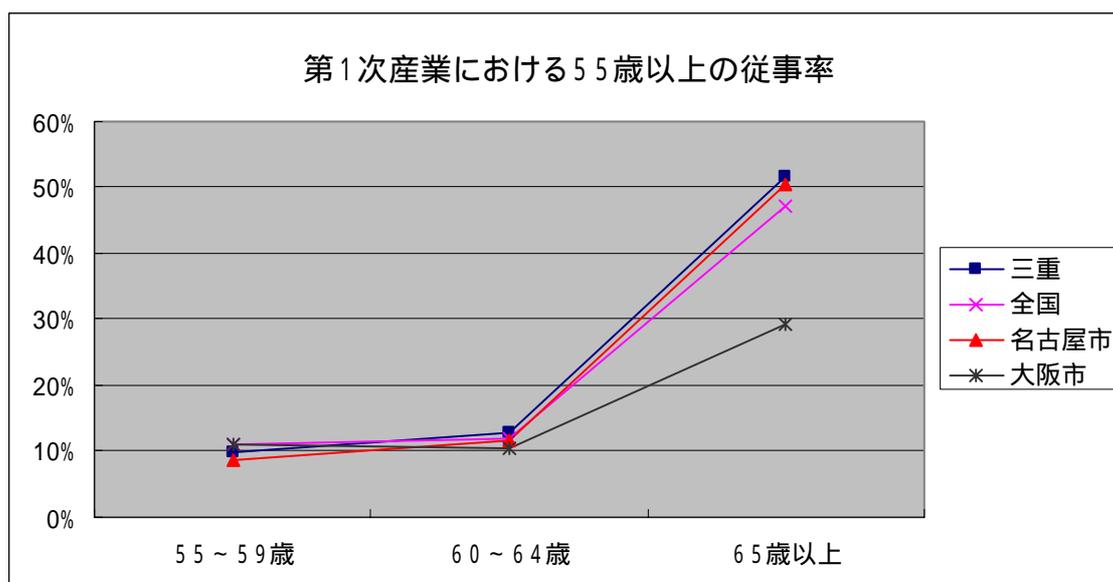


表 2 - 4



特に 表 2 - 4 のグラフを見ると、総就労者に占める大都市での第1次産業従事者の割合は低い。例えば60～64歳の従事者を数値でみると、三重県では7%、名古屋市0.3%、大阪市0.1%であり、三重県は名古屋市の約23倍、大阪市の70倍の従事者がいることがわかり、全体的に三重県では、大都市の何十倍もの高齢者が第1次産業に就業していることになる。

表 2 - 5



また 表 2 - 4 表 2 - 5 からは、三重県と全国の第 1 次産業従事者の割合はあまり変わらないことがわかる。そこからこの世代の三重県における第 1 次産業従事者の割合は、全国では平均に位置するといえる。

この 3 つの表全体から、大都市での第 1 次産業の従事率がかなり低いこと、そして 6 5 歳以上に注目すると三重県・全国共にこの年代の第 1 次産業従事率が跳ね上がっていることがわかる。表 2 - 5 からは、県内での第 1 次産業従事者の中での 6 5 歳以上の割合が 5 2 % とかなりの高い数値を示しており、第 1 次産業への従事をどれほど高齢者に頼っているかが見受けられる。

ここで考えたいのは、全国的な「2007年問題」「団塊世代の大量退職」に対応する講座が、全ての都道府県・市町にただちに必要か否かである。最近、全国的に増加傾向にある団塊世代を対象とした講座は、定年後の新しい生きがいを求める参加者を募るものが多い。しかし、三重県のように自然環境に恵まれ、第 1 次産業が盛んである県の団塊世代にとっては、6 0 歳からも今までどおり農業や漁業に従事する、また退職を期にこれらの産業に従事する傾向があり、第 1 次産業の少ない大都市等と同様に考えることは出来ず、6 5 歳以上の世代も同じことが言える。

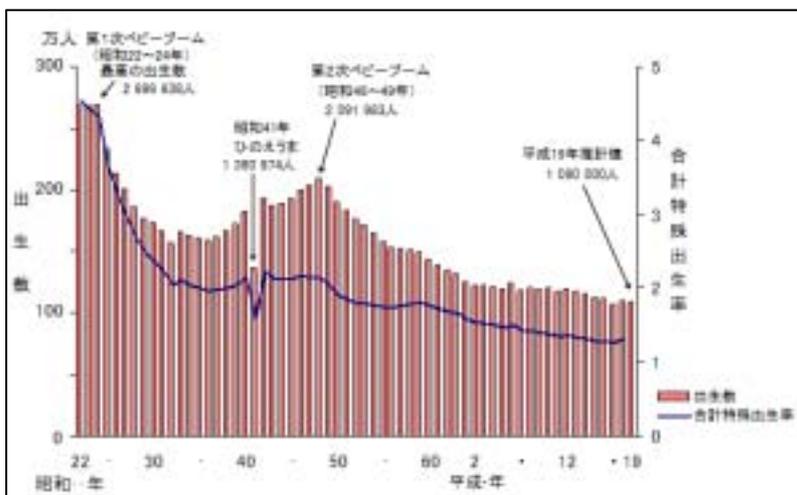
この結果から、三重県の団塊世代・高齢者世代に、今必要と思われる講座は、仕事に代わる新たな生きがいを求めるものよりも、現在持っている知識を深めたり、地域とより深くかかわったりするような講座の方が、実態に即した内容と言えるのではないだろうか。このような講座は、世代別のテーマにこだわる必要はなく、地域の住民から求められるものを提供していくことが、受講者の獲得や満足度の向上につながる。とは言え、「2007年問題」を無視することは出来ず、三重県にも緩やかながらその波はやってくる。生涯学習の中で、退職後の新たな生きがいを提供していくことは必要であり、徐々に準備を始めていくことが重要と考える。

2)「子ども」及び「青少年」を対象とした講座について

次に実施数が多かった「子ども」及び「青少年」を対象とした講座、親子参加を目的とした講座に焦点を当ててみる。

近年、家庭教育・子育て支援に関する取り組みや講座の実施が目立つ。家庭環境の変化に伴い、様々な企画や講座の実施が積極的に行なわれている。

表 2 - 6 出典：厚生労働省 平成 19 年人口動態統計の年間推計

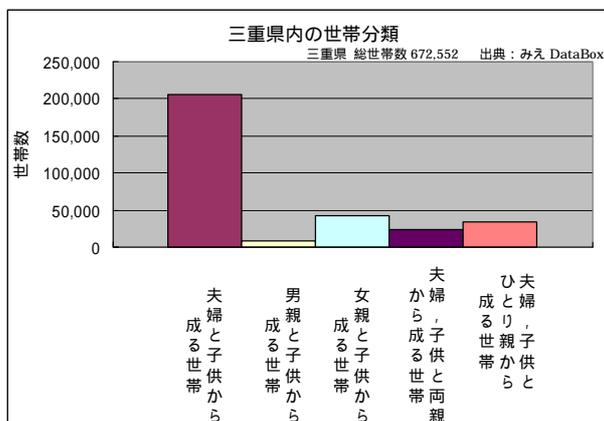


まず、表 2 - 6 の人口動態調査の合計特殊出生率を見ると、団塊世代ジュニアで第 2 次ベビーブームに生まれた世代が、団塊の世代の次に多いことがわかる。しかし、この世代以降、特に近年出生率は減少傾向となっている。

次に、県内の家族構成にも着目した。

表 2 - 7 から、「夫婦と子どもからなる世帯」いわゆる核家族が突出して多いことがわかる。核家族化が進むということは、日常子育ては夫婦だけで行なっており、相談できる年長者が身近にいない環境が想像される。また、地域の「つながり」が希薄になってきている現代社会では、子育てで孤立化する世帯もある。

表 2 - 7



ここまでで示した現状からすると、核家族世帯等が求める子育てに関する学習機会のニーズを、生涯学習施設が理解し講座として提供する、「需要と供給」のバランスが取れているということである。

一方、『「子ども」や「青少年」を対象とした講座』・『親子参加を目的とした講座』に比べ、『異世代間交流を目的とした講座』の実施は少ない 表 1 - 1 2 ( P 5 )。表 2 - 7 からわかるように、実際に 2 世代や 3 世代が同じ屋根の下に居住する世帯が少なく、家庭で異世代間交流が困難な状況にある今、異世代間交流の場づくりは、「子ども」世代の学びや育ち、また「高齢者」世代の知識の伝承や地域交流の観点からも、生涯学習施設が取り

組むべき大きな意義が見出せるのではないか。また、こういった交流の場が増えることによって、希薄になった地域の「つながり」も再構築できるのではないかと考える。

アンケート外とはなるが、異世代間交流のモデル事業として、当センターの事業を紹介する。

## お正月あそび再・発・見



昔はお正月になると、あちらこちらで子どもたちが凧揚げや羽根つき、独楽回しをして遊んだり、大人も子どもも集まってお餅つきなどをしていたが、最近ではそのような様子はすっかり見られなくなっている。そこで、現代の子どもたちに昔お正月を彩った「あそび」を体験してもらい、日本の文化に触れてもらいたいという思いから、このイベントを開催した。

当日は三重県各地から募った「あそび」の名人さんたちにお越しいただき、自分たちが昔得意だったあそびを子どもたちに教えていただいた。子どもたちは珍しいあそびに一生懸命挑戦し楽しんでいった。また、子どもたちだけでなく、一緒に訪れた保護者のみなさんも子どもの頃を思い出して夢中になってあそびを楽しんでいた。



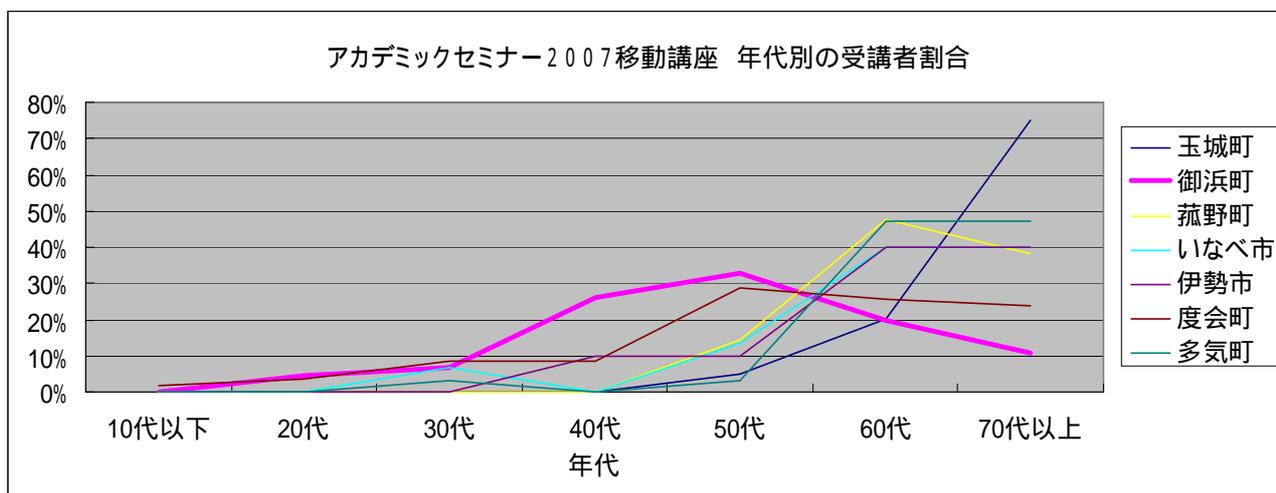
この「お正月あそび」で、子どもたちは名人さんに最近では体験することが難しくなった遊びを教えられながら日本の文化に触れ、また、名人さんとの世代を超えた交流がなされていた。当日は予想を遥かに上回る延べ2,400人の来客数となり、現代の家庭や子どもたちにもこういった講座(イベント)が求められていることが分かり、また各地域に様々な分野で活躍できるスキルを持った方が多くいらっしゃることも分かった。

### 3) 男性・女性に焦点を置いた講座について

表1-7 表1-8 に示したように、男性に焦点を置いた講座、女性に焦点を置いた講座の実施数は少ない。ここでは、1)と2)で考察した世代を除いた30～50代の男性・女性を中心に考えていきたい。

講座対象者のうち30代～50代は、就業率の高さに加え、子育てに忙しく、受講が難しいという現状がある。この世代の受講者を増加させるためには、受講しやすい環境をつくり、この世代が求めているニーズを把握しなければならない。受講しやすい環境とは、仕事帰りでも参加できる時間帯に講座を実施したり、子育て世代対象の講座では、託児をつけたりといった工夫が求められるであろう。

例として、今年度当センターで実施した、アウトリーチ事業における比較を見ていただきたい。



13:30-15:30	19:00-20:30	13:30-15:30	14:00-16:00	13:30-15:00	13:30-15:00	13:30-15:00
玉城町	御浜町	菰野町	いなべ市	伊勢市	度会町	多気町

表2-8

受講者の年代別の割合を見ると、御浜町以外の昼間開催の出前講座では、平均で30代(3%)、40代(3%)、50代(13%)の受講者割合であったものが、19時からの開催となった御浜町の講座では、30代(7%)、40代(26%)、50代(33%)であり、この世代から平均以上の参加があったことがわかり、講座実施の「時間帯」に関する有効性はあると考えられる。

そして、もうひとつ有効だったと考えられるのは講座のテーマである。この講座は「21世紀農業農村の方向性 - 地域活性化の考え方 -」をテーマとして、農業で地域の振興を目指す御浜町からのニーズをすくい上げ、御浜町に合った「地域を活性化させていくにはどうすればよいか」を内容とし、実施した。地域住民が必要と感じているテーマを選んだことが、受講者の興味を引いたと思われる。

このように、世代をターゲットとした環境づくりやニーズ、その地域にあった講座テーマを提供することが出来れば、社会の中核世代が受講者の中心となって生涯学習の輪を広げていくことも可能であると考えられる。

#### 4) その他講座について

ここまで大きく「団塊の世代・高齢者向け講座」と「子ども・青少年向け、親子参加型講座」に着目してきたが、アンケート回答の中には、年代や性別で区別できない講座があり結果の中に反映できないものも多かった。地域から求められる講座を提供するためには、それらも合わせて考察する必要がある。

一般に、趣味・教養に関する講座については、生涯学習施設だけではなく、カルチャーセンター・民間施設などでも数多く実施されている。生涯学習施設でも例に挙げた崇廣堂のように、施設の特色を活かした講座を実施することも可能であり、さらに施設の持つ歴史などを理解し活かしていけば、講座の幅を広げることも可能である。

文化・歴史・慣習に関する講座	→	施設名	内容
		NPO 法人五十鈴塾	「伊勢神宮に関する講座、食文化、まつり」 神宮のまつり、遷宮の年、125社めぐり、伊勢の風習など
		桑名市長島ふれあい学習館	「七夕企画」 併設する図書館との合同企画。七夕にあわせてプラネタリウムで天の川を見たり、図書館職員による読み聞かせを行い七夕について学習する。

趣味・教養に関する講座	→	施設名	内容
		史跡旧崇廣堂	「津軽三味線のゆうべ in 崇廣堂」 秋の名月を見ながら津軽三味線・民謡を鑑賞するコンサート。
		名張公民館	「ヒップホップ講座」(全6回) ストレッチ・基本リズムの取り方とステップ、ダンスの振り付け

文化・歴史・慣習に関するものとして、「地域学」への取り組みに注目したい。「地域学」に関しては、半数以上の施設で実施されており、また各都道府県で「ご当地検定」なども盛んに行なわれており、今注目されている。県内各地域で実施された講座は、次頁のとおりである。

## 地域学

地域の皆さんが自分たちの地域の自然や歴史などを学ぶ地域学が盛んに行われている。市・町が中心になって取り組んでいる「三重ふるさと学」。地域学は、郷土愛を育み、地域づくりへの参加のきっかけとなるなど、地域の絆づくりにつながっている。

また、日々の暮らしを送っている中では、なかなかその特徴に気づかない地域でも、その地域に特有の自然や歴史、伝統があり、それを学ぶことにより地域の魅力を再発見、再認識することにつながっている。



### 【施設での地域学実践例】

施設名	事業名	事業内容
三重県立熊野少年自然の家	熊野自然塾など	熊野地域学、自然体験等
伊勢市小俣図書館	創作劇	地元の問題を盛り込んだオリジナル脚本で、小学生が1つの劇を演じることで、地域への関心を高めたり、協力して何かを作り上げることの大切さを学ぶ。
斎宮歴史博物館	歴史講座「特別展を10倍楽しむ」	古代～中世の斎宮周辺の歴史についての講座を館内、町内で実施した。斎宮周辺の荘園や仏像をテーマとした。
みえこどもの城	ほたる観察会 海の生き物観察会 化石採集&標本づくり	名張市国津地区でのホタル観察を中心とした交流事業 松阪市松名瀬海岸において地域の公民館との交流事業 一志層群での化石採集
伊賀市文化都市協会	古文書教室	地域の古文書を読む。
鈴鹿市考古博物館	企画展関連講座「古代の鈴鹿」 入門講座「ヤマトタケルの考古学」	
藤原岳自然科学館	植物標本をつくらう	

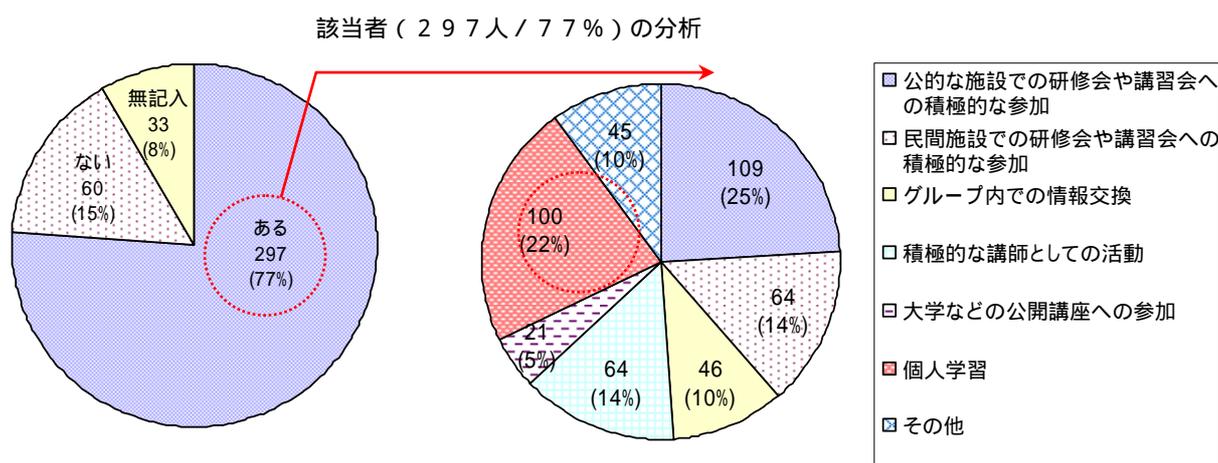
県内各地で特色を活かした講座が行なわれており、次に考察していく「人財育成」の分野でも、「地域学」を取り入れたものが多い。「地域学」とは、自分の暮らす地域の歴史・文化や自然を知ることであり、講座として多種多様な展開が考えられ、広がりやすい分野であろう。

#### 「人財活用」のための取り組みについて

結果から、アンケートに回答いただいた62%の施設が「人財活用を目的とした取り組み」を実施しており、人財を施設のボランティア等で活用することに積極的な姿勢が伺える。しかし、既に活動している人財の更なる育成・活用となると、十分な事業が実施されていないことがわかった。

人財の育成および活用に取り組むことを困難としている理由を尋ねると、予算・人手不足などが理由に挙げたが、指定管理者制度が導入される施設が増加傾向にあることを考慮すると、施設運営側の努力とアイデアで解決しなければならない問題として、これからの課題となってくる。

では、地域で活躍するボランティアや講師側は自らのスキルアップをどのように図っているのか。昨年度の当センターの調査研究「地域講師の活動状況と学習志向に関する調査」（この調査は、三重県生涯学習センター生涯学習情報提供システムに登録している指導者・講師へ活動実態や団体・グループ等への所属状況を調査したものである。）の結果に基づいた資料を用いて考察していきたい。



図表 15

スキルアップへの取り組み

図表 16

スキルアップへの取り組み

(内訳・複数回答)

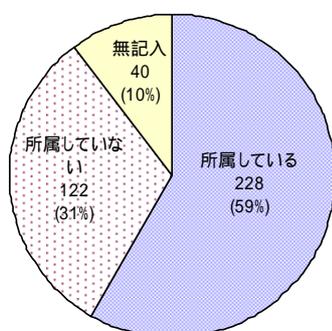
表 2 - 9

表 2 - 9 から約 8 割の登録者が、自らの知識・技能向上のための取り組みを行っており、その内訳として、公的施設や民間施設・大学での講座や研修会への参加、また個人学習等がある。

人財を活用するにあたっては、人財側の自主性も大きな要因で、今現在の技能の向上を目指し新しいものを取り入れていく努力も必要となってくる。まなびの郷の『講座受講者によるサークルの設立』表 1 - 2 3 ( P 9 ) は、各地の講習会への受講や講師活動の実践などで力を付けていこうとするものであり、人財側の自主性が見える取り組みである。

表 2 - 1 0

団体・グループへの所属状況



次に、「地域の団体・グループと連携・協働した講座を実施したか」に着目したい。実施した施設は 5 施設で全体の 3 3 % となっており 表 1 - 2 0 ( P 8 ) 積極的に連携・協働をすすめていく難しさを示している。

表 2 - 1 0 は、三重県生涯学習情報登録システムに登録された講師が、生涯学習に関する何らかの団体・グループに所属しているかどうかの調査結果であり、登録者の約 6 割が何らかの団体・グループに所属していることが分かる。施設が知識の深い人財を講師として活用しようと考えるときに、このような団体・グループから探すことも有効な方法であるといえる。

このことから、地域の生涯学習に関する団体・グループの情報を入手して活用することで、幅広い講座の展開が期待できるのではないだろうか。

### (3) 考察から見えてきたこと

ここまで「講座の実施状況」と「人財の育成・活用」について考察してきたが、この2つの結果からどの施設でも特色あるオリジナリティーに富んだ講座を実施していること、それぞれの地域性に即した内容で企画されていることが分かった。

また、人財育成の重要性を認識しながらも、予算・人手不足等の理由で実施できない施設が多いことも挙げられる。これらの特徴を活かしながら、1つでも多くの施設で事業を実施するためのキーワードは、「連携・協働」ではないだろうか。1つの施設ではできないことも、他の施設や行政機関・団体と連携・協働すれば打開策が見えるのではないかと考える。

#### 【小規模施設の連携例】

連携先	内容
県・市職員	各担当分野での講演 (健康づくり、人権、子育て支援など)
消防署員	防災に関すること AED講習など
地域の薬局	薬に関すること
社会福祉協議会	介護に関すること

同じような学習課題を抱える市町と連携・協働し、創意工夫することにより、費用面・人材面でも補い合いながら、 $1 + 1 = 2$ ではなく2から3へ、3から4への事業展開が可能になるのではないかと考える。

そして、講座でも人財育成でも多く見られたテーマが「地域学」であった。「地域学」を上手く講座に取り入れれば、歴史や伝統に限らず、地域に必要な知識、地域環境を守る術や防災対策等も「地域学」の1つと考え提供することができ、生涯学習の幅が広がっていくと考えられる。

三重県は南北に長く、それゆえに地域性の強い文化・風習などは、同じ県内でも知られていないものが多い。特色ある「地域学」を他の地域と連携し、お互いの地域の「地域学」を学びあうことで、県内の受講者・人財の交流を盛んにし、生涯学習を活発にすることもできるのではないだろうか。

#### 4 全国事例の紹介

ここまでの「結果」「考察」を踏まえ、三重県の生涯学習振興に有効であると思われる要素を活用した講座、また地域に密着した団塊世代・シニア世代なども参加できる人財育成・活用を中心に、全国の事例を調査した。その中から島根県立生涯学習推進センターによる取り組み「しまね県民大学」を紹介する。

### 「しまね県民大学」に見る連携と圏域への広がり

島根県立生涯学習推進センター

#### (1) 島根県の生涯学習推進センターの概要



島根県立生涯学習推進センター

島根県では、『生涯学習に関する指導者の養成及び情報の提供を行なうとともに県民の学習の機会を提供することにより、県民の生涯学習の振興に資する』目的のもとに、平成7年4月松江市に「島根県立生涯学習推進センター」を、平成12年4月浜田市に「島根県立西部生涯学習推進センター」を開設した。2つの推進センターは、東西に長い島根県を東部・西部に分け、県内各市町村の関係機関・団体との連携を密に一体となっ

て、先駆的・先導的な学習プログラムの作成や、生涯学習指導者・担当者の養成ならびに生涯学習に関する情報提供や相談など、生涯学習推進に関する事業を展開している。

#### (2) 「しまね県民大学」の概要

「しまね県民大学」は「しまね・ふるさと学」講座と題して、島根県の環境・歴史・文化・伝統・産業・人物など固有の資源を教材とし、新たなふるさとづくりを目指し、島根県民のアイデンティティを確立する目的で、平成3年10月に開設された。

地域ごとに県の東部を4圏域、西部を3圏域に分け、全7圏域で地域ごとにテーマを決め、それに沿った連続講座を開催している。

#### (3) 「しまね・ふるさと学」講座にみる市町村および関係者との連携

圏域の市町村との連携を深めるために、地方機関および市町村教育委員会関係者や住民代表等が委員を務める「企画運営委員会」が組織されている。そこで毎年学習テーマが話し合われ、各圏域全体の講座として意識の共有がなされている。テーマが決定すれば、それに沿ってその年の共催市町村と連携し、プログラムを企画・運営していく。

また、県の地方機関職員で構成される「県民大学講座連絡会議」との連携も密にし、講師となる人材の発掘・活用を進められるようにしている。

(4)「しまね・ふるさと学」講座の成果と課題

現在この講座は、圏域ごとにテーマに沿って4～5回の連続講座として開催されており、受講者は圏域ごとに申込をするシステムとなっている。

近年は参加体験型講座を増やしているために、受講者数の制限がある講座も多いが、それでも年間2,000人ほどの県民が受講する人気講座である。

19年度のアンケートの結果(一部抜粋)

質 問	結 果
県民大学への参加経験	ある 75% ない 24%
講座参加の目的 (複数回答可)	ふるさとに理解をすすめるため 40% 自分の趣味や興味のため 31% 地域づくりに活かすため 15%
学んだことをどこで活かしたいか (複数回答可)	家庭で 30% 地域で 28% 個人で 23%
学習を生かし地域活動への参加をしたい	思う 45% どちらかというと思う 34%
出会いや仲間づくりができた	よくできた 8% 少しできた 51%
講座満足度・参考度 (5段階中第2位までの集計)	とても参考になった 47% 参考になった 33%
今後参加してみたい講座内容	健康、食育、環境、暮らし、歴史など

受講者からのアンケート結果を詳しく見ると、「講座に対する満足度・参考度」が非常に高く、また、受講者の4分の3が「県民大学への参加経験」があり、リピーターが多いことが分かる。リピーターが多いことは、講座が支持されていることにも繋がるが、毎年質の高い講座を求められるということでもある。その点をどう解決しているのかを考えると、講座プログラムの構成に理由が見えてくる。



フィールドワーク：松江圏域「名水巡り」

平成3年から開校された「しまね県民大学」は、当初は講義中心であったが、近年はフィールドワークを増やし、事例発表等も実施している。講義中心の講座から参加体験型講座を増やし、リピーターの多い受講者に合わせた構成へと変遷しており、継続の中で発展してきたプログラムであることがわかる。

アンケートに見られる受講者の声からも「5回全部出席でしたが、それぞれに毎回工夫された内容であり、変化があって退屈せず楽しみながら研修できました。」

「ふるさとの良さを再認識しました。町の中に出かけて歩いたり食べたりする学習は、とても楽しいものだと思います。是非続けてやって下さい。」

などの意見があり、県民から一定の評価を受けている。

また、講座の内容が圏域ごとの特徴を有していること、受講者アンケートの『参加してみたい講座内容』にも挙げられた健康や食育等をテーマにしたプログラムもあること、県民であれば他の圏域の講座も受講できることも、魅力であるといえる。

平成19年度 しまね県民大学「しまね・ふるさと学」講座  
「ふるさとを知り、ふるさとを活かす」  
～ 島根県東部 4圏域講座のごあんない ～

■対象：県民のみならず、各圏域50名程度  
■受講料：無料(実費等がかかる場合有)

島根県立生涯学習推進センター  
TEL (0852) 32-5932・32-5933  
FAX (0852) 32-5934

平成19年度しまね県民大学 チラシ



企画運営委員会

#### (5) 事例から学んだこと

「県民大学」という取り組みは、「地域学」が生涯学習のひとつの主流となっている現在ではそう目新しいものではない。しかしこの事業・講座が成功している要因を挙げるとするならば、センターと県内の市町村との連携並びに圏域住民の声をすくい上げる仕組みにあるのではないだろうか。各市町村や住民代表から意見を収集することができる「企画運営委員会」によって、

圏域住民により近い視点でテーマ・プログラムを考えることができ、住民が本当に学びたい講座を提供できていると考えられる。

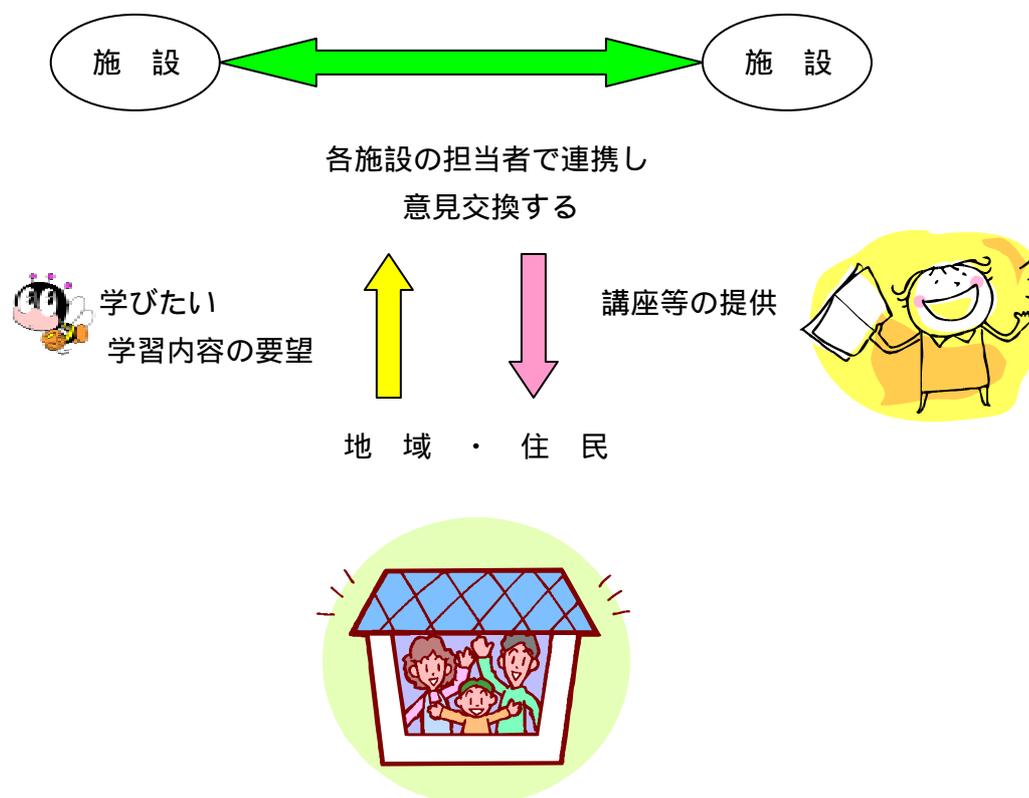
- 1 フィールドワーク...野外等、現地の実態に即した調査・研究。

## まとめ

これまでの調査結果・事例研究から、三重県の多くの生涯学習施設が抱える課題の解決につながるものとして考えられる「視点」に対し、学習プログラムの提案や事例の紹介を交えながら、本書のまとめとしたい。

### 1 関係機関と連携する

- 3 考察の中で、予算不足・人手不足等の解消に「協働・連携」を提案した。「協働・連携」をどう行なうか、その1つの答えとなるのが「しまね県民大学」における連携の在り方である。この事例は、圏域にわたっての広域的な連携であるが、これを各市町、各施設での地域や住民との連携に置き換えていただきたい。



上記のような施設間の連携だけでなく、市町間の連携が可能になれば、提供できる講座等の幅も広がってくるであろう。各市町・施設で抱える課題は多岐にわたると思うが、近隣市町・施設だけでなく広域的な視野で見れば、同様の学習課題を抱える市町同士で連携することも可能であろう。これからは、「共同企画」や「連携講座」等の形で、1 + 1を3や4にして地域に提供していける「広がり」が必要なのではないだろうか。

( 2 ) 社会全体の教育力の向上 - 学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり -

それぞれの地域社会の教育力向上のためには、学校、家庭、地域がそれぞれ持つ教育力の向上を図ることとあわせて、学校、家庭及び地域住民のほか、その地域の企業やNPO等の関係者が、それぞれに期待させる役割を果たしつつ、緊密に連携・協力して地域社会が一体となって地域の教育課題等に取り組むことが重要である。国及び地方公共団体は、以下に掲げる施策等を実施することにより、これらの関係者・関係機関が十分に連携できるようにするための仕組みづくりを積極的に支援することが必要である。

平成20年2月19日中央教育審議会答申

「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について

～ 知の循環型社会の構築を目指して～」本文より抜粋

2 地域にとって魅力ある講座を提供する

「地域にとって魅力ある講座とは何か？」といえば、地域の住民が求める、ニーズのある学習講座を提供することであると言える。しかし、行政や生涯学習施設は、求められるテーマだけを追いかけて提供していけばいいわけではない。地域が必要としているテーマには、住民がその必要性に気づきにくい潜在化したものもある。この潜在化した学習課題の必要性を地域に発信していくことは、生涯学習に携わる者のミッション(使命)である。

ここから上記2つのテーマに沿って、いくつか講座を提案したい。

A地域は、数十年前に河川や沼を埋め立ててできた土地であった。地震等で地盤沈下が起きる可能性があるのだが、県外や市域外から新しく移転してきた住民も多く、危険性の認知度は低い。

今後、森林の伐採が進み、雨量が多くなったときには、山からの水で洪水や土石流などの災害が起こる恐れもある。



- ・自分たちが住む地域がどのように作られた土地なのか
  - ・地域の自然環境がどのような状態なのか
- この問題を地域の歴史とともに学ぶ。



地域学



災害が起きた時どう対処するのか  
災害が起こることを想定して“防災”とその“予防”について学ぶ



防災講座

年々増え続ける日本在住の外国人。様々な国籍の人がいるが、共通の悩みや不思議も多いはず。どうすれば？誰に聞いたら？を一緒に解決したい。

平成19年度末、現在の三重県内の外国人登録者数は51,638人となり、県内各地に分布している。それぞれの地域での共通の課題を協働して解決する。

→ 他の市町との連携

在留外国人側と日本人側、また民生委員など様々な立場の方が集まり意見を出し合える場を作り、今地域で求められている講座を受講者の視点で企画する。

→ ニーズのすくい上げ

### 3 よりよい人財育成 そして活用のために

三重県では、平成19年度から「みえの地域きずな創生事業」に取り組んでいる。これは、平成18年度までの「みえのコミュニティーチャーター事業」で登録された、日頃様々な形で子どもたちに接している地域の指導者「コミュニティーチャーター」を中心に、子どもたちに規範意識や社会性を育む取り組みを進めるものである。また、指導者の資質向上を目指し、コミュニティーチャーターをはじめとした子どもたちの活動に関わる人財を対象に、研修会・フォーラムを開いている。

また現在、国の施策としては、「教育サポーター制度」の創設が進められている。団塊世代を中心とした高齢者・退職者の社会参加促進を目的としたもので、今までの経験を活かし、現役で活躍する機会を拡大させようとするものである。

三重県内でも全国的にも、団塊・シニア世代や様々な技術・技能を持った人たちを、もっと地域で活用していこうという動きが活発化している。近年「地域社会の崩壊」という言葉をよく耳にするが、ライフスタイルが変化し、核家族が増えたことで『地縁』『血縁』の絆が、弱くなったのは確かである。しかし、その崩壊しかけた地域の絆を結ぶのに注目

されているのが、ボランティアやNPO等、同じ目的を持ち活動する人々である。この人財が、地域の子育てや高齢者支援等、様々な活動にかかわり、地域を再生していく力になっていくと考えられる。ここで当センターの人財の養成講座や活用の事例を挙げる。



## 三重県生涯学習センターの取り組み

### 事例 1 人材育成事業

平成19年度から、生涯学習社会の実現に向けた資質や実践力の向上を目指し、「社会教育」「子育て支援」「子どもの読書推進」「人権」「青少年育成・高齢者支援」についての人材育成講座をスタートさせた。

#### ・テーマの決定方法

各分野の今注目されているテーマや手法、また連携機関との協議などの結果、可能な限り新しい課題に取り組めるようにした。

#### ・広域的な広報

県内全域から受講者を募集。各市町教育委員会を通じ、市町の各担当者に講座の周知を行なった。また、各分野で活躍している方々に、情報を直接発信するために、図書館や社会福祉協議会、公民館連絡協議会やPTA 連合会等、各機関に協力いただいた。その他、NPO やボランティア団体にチラシ等をお渡しし、この講座を必要としている方に情報が届くことを目標として、広報活動を行なった。

#### ・講座の内容

受講対象を、学校・家庭・地域で活動を推進・実践されている方を中心とし、より質の高い専門性のある内容を目指した。各分野に専門性を持った方の講演や、参加体験型の手法を取り入れたりと、実践の場で役立つよう工夫を重ねた。

平成20年度は、今年度を受講者からいただいた要望や培ったスキル<sup>2</sup>を活用し、ワークショップ<sup>3</sup>なども取り入れながら実施していく。

2 スキル...手腕、技法。また訓練によって得られる、特殊な技能や技術。

3 ワークショップ...全ての学習者が学習の場に積極的に参加し、相互に学びあう過程を通じて様々な気づきや発見をする参加体験型の学習方法。

事例 2

司会者養成講座 めざせ！MC！！

4月に実施した講座、日本語の正しい使い方を学んだ「美しい話し方」が好評であり、その講座を発展させ、司会者としての心構えやスキルを身に付けた講座である。

・講座の内容

講師にフリーアナウンサー 山上和美さんをお迎えし、発声やアクセント、共通語と方言の違い、原稿読みの練習、司会者原稿の作成等を学んだ。最終日には、舞台に立ち、自分が作成した台本をもとに司会進行を行なう発表会も実施した。

・講座の成果

全ての日程に参加できる方を対象とした、少人数制での5回の連続講座であったため、受講者の意欲は高く、一定のスキルを身に付けて終了できた。受講者の活躍の場として、希望者には「三重県総合文化センター 司会ボランティア」として登録してもらい、主催イベント等で活躍してもらっている。

受講者を司会として起用したイベント（H19）

7月 8日（日）みえアカデミックセミナー2007 オープニング

8月 4日（土）祭！2007 一部イベント

11月24日（土）みえ生涯学習ネットワーク 実践発表会

3月15日（土）三重のまなび2007ファイナルセミナー など

地域の人財を活用することで、次世代の育成や異世代間交流等をスムーズに行なうことができる。これからは、地域の中でスキルはあるけれども活用する機会がない人、興味はあるけれど参加していない人達を、地域社会の中いかに取り込んで養成していくか、また育った人財をどう活用していくかが、生涯学習社会の確立に向けて大きな課題となっていくであろう。

#### 4 生涯学習を地域へ広げていくために

##### 3. 目指すべき施策の方向性

多様な学習機会の提供及び再チャレンジが可能な環境の整備

(中略)

上記のように、今後わが国においては、「個人の要望」や「社会の要請」に応じて、国民が必要とする力を身に付けるために必要な学習機会が提供され、人々の学習が円滑に行なわれることが必要である。その際には、生涯学習の理念の下、国民一人一人が生涯にわたって主体的に多様な選択を行ないながら人生を設計していくことができるよう、いつでも「学び直し」や新たな学びへの挑戦、さらにはそれらにより得られた学習成果を生かすことが可能な環境整備を行なうことが重要である。

(中略)

なお、社会の変化に対応するために必要な学習や公共の観点から求められる学習等については、学習者が必ずしも積極的に学習をしようとしめない場合や、学習しようと思っても学習機会が十分でない場合、市場メカニズムに委ねていると民間事業者によって学習機会が提供されない場合等が考えられ、そのような課題については、行政が積極的に学習機会を自ら提供したり、学習者の興味・関心を呼び起こすための啓発活動を行ったり、また、様々な主体により提供される学習機会の把握に努め、国民の学習需要に応えられているか検証し、改善を図ることが必要である。このため、公民館、図書館、博物館、青少年教育施設、女性教育施設等の社会教育施設の果たす役割は大きい。

平成20年2月19日中央教育審議会答申

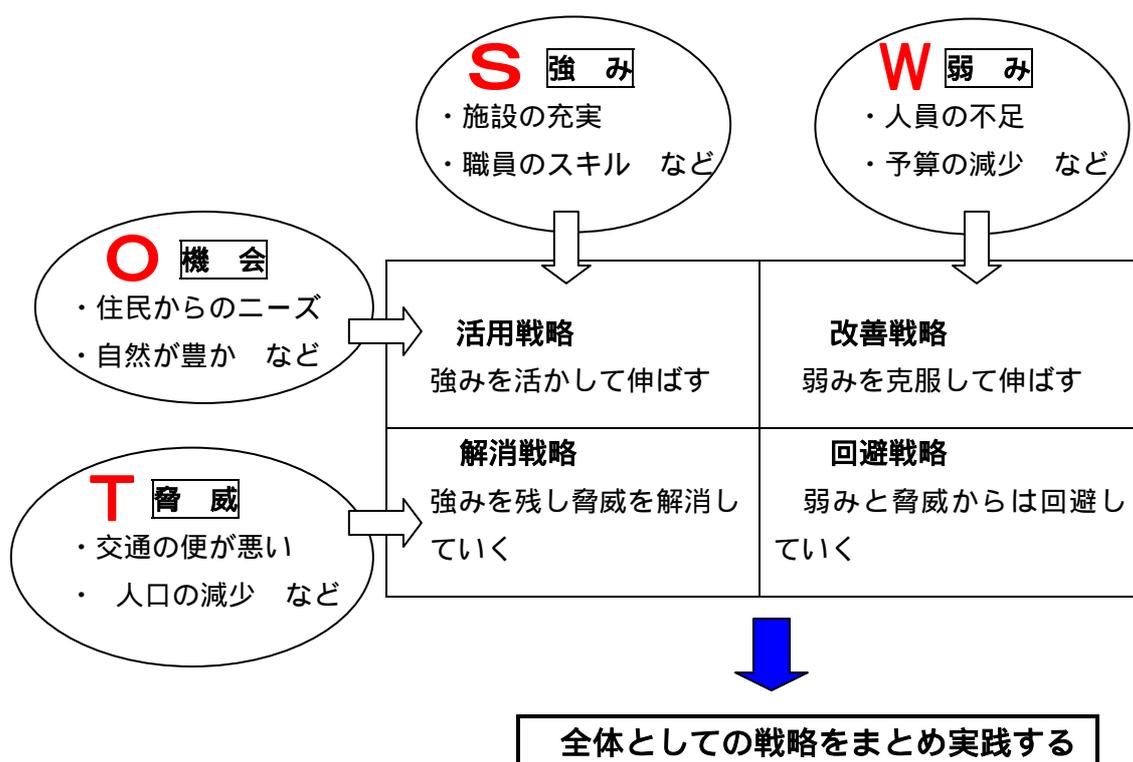
「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について

～ 知の循環型社会の構築を目指して～」本文より抜粋

平成20年2月の中央教育審議会において、社会の変化による学習需要の変化と、社会教育施設の果たす役割について上記のように提示された。もちろんわれわれ生涯学習施設にも、より良く生涯学習が行なわれるために一層の努力が求められるが、質の高い講座や研修等を提供するためには、まずは自身の施設を正確に理解する必要がある。その1つの手段として、SWOT分析を活用することができる。

SWOT分析とは、主に企業の戦略立案やマーケティング<sup>4</sup>を行なう際に使用される経営分析方法である。S：Strength（強み）、W：Weakness（弱み）、O：Opportunity（機会）、T：Threat（脅威）を指す。外的要因を「機会・脅威」、内的要因を「強み・弱み」として、それぞれを整理し分析する手法である。近年では、地方自治体や公共機関でも活用され始めている。

- 4 マーケティング...顧客ニーズを的確につかんで製品計画を立て、最も有利な販売経路を選ぶとともに、販売促進努力により、需要の増加と新たな市場開発を図る企業の諸活動。



三重県生涯学習センターでは、ISO9001（品質マネジメントシステム）の導入で顧客ニーズを把握し、事業目標を数値化し、継続的に改善活動を行うことにより成果を収めてきている。地域活性化の拠点として、今まで以上に活躍が求められる生涯学習施設にとって、さまざまな手法や考えを取り入れていくことも重要なのではなかろうか。

今回の調査は、県内全ての生涯学習施設に実施したものではないため、この結果がそのまま三重県の現状を表しているとはいえない。しかし、地域が必要とする講座を提供することの難しさ、人財を養成し、地域に還元していくことの重要性が明らかとなった。この調査報告が、県内の生涯学習の質の向上・発展に役立つことを願う。

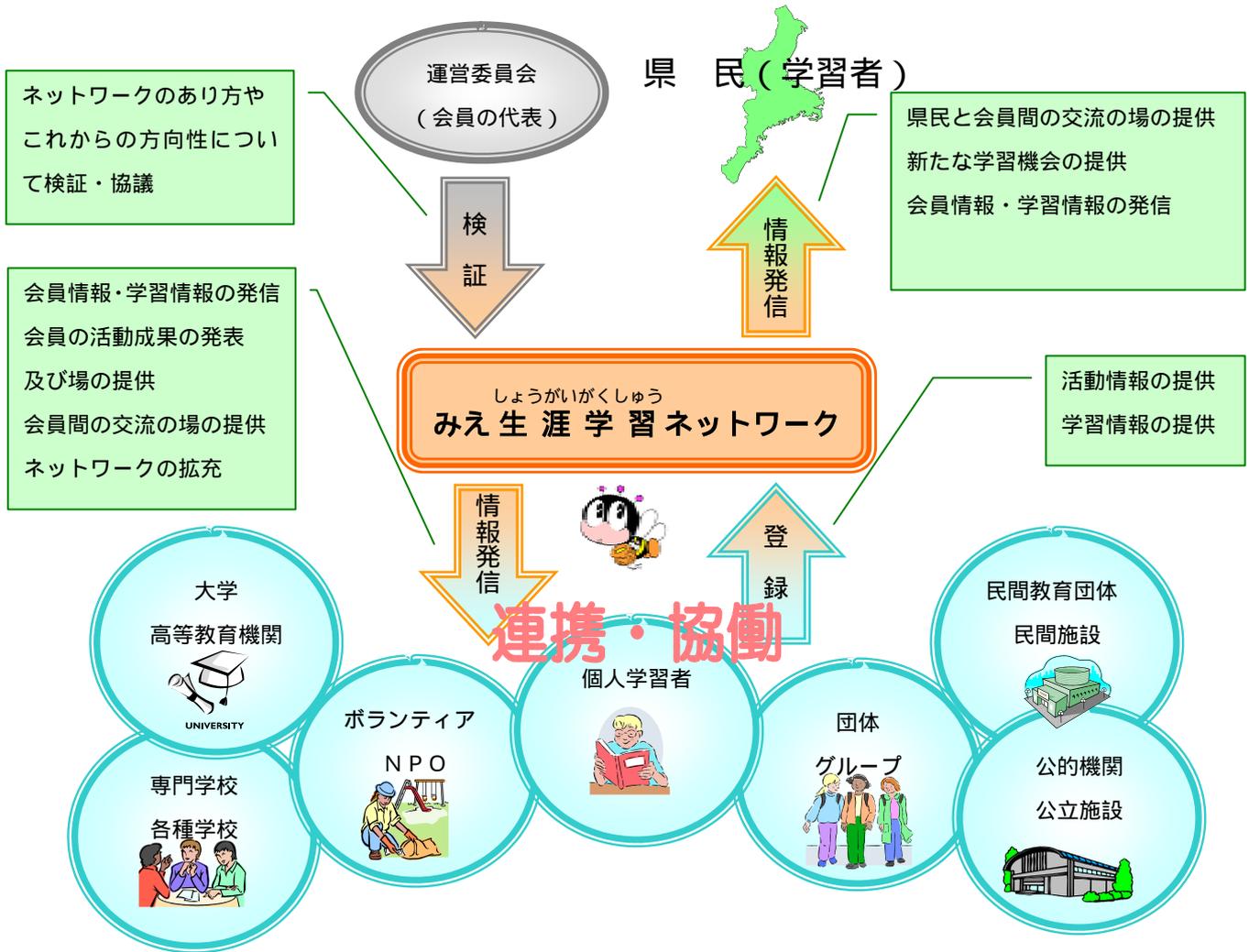


## 付録

- ・ みえ生涯学習ネットワーク（イメージ図説）
- ・ 県内15施設へのアンケートと実施講座の紹介  
『生涯学習施設における学習講座の実施状況と人財の活用に関する調査』
- ・ 三重県生涯学習情報提供システム登録施設へのアンケート  
『県内施設への調査用紙』



みえ生涯学習ネットワーク（イメージ図説）



## 生涯学習施設における学習講座の実施状況と人財の活用に関する調査

三重県生涯学習センター

この調査は、県内の生涯学習施設の学習講座の実施状況や地域の人的資源（人財）の活用状況について知るためのものです。

ご多忙のところお手数をおかけしますが、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、この調査では、人を財産として考え、「じんざい」という言葉を、あえて「人材」ではなく「人財」と表記させていただきます。

### お問い合わせ先

三重県生涯学習センター（三重県総合文化センター内）

〒514-0061

三重県津市一身田上津部田1234

TEL 059-233-1150

FAX 059-233-1155

### 調査対象者

この調査は県内の15施設をお願いしています。

### ご記入にあたって

お答えは、選択肢の中から貴施設の現状に当てはまると思われるものを選んでいただき、で囲んでください。詳細については、できる限り詳しくお書き下さい。また、その設問に関するチラシや資料などがありましたら、ご添付下さい。

ご記入いただきましたアンケートは

10月31日（水）までに添付の封筒、またはFAXにてご返送下さい。

**Q1 施設名をご記入下さい**

( )

Q2、Q3、Q4の実施講座に対する問いについて、該当する講座が2つ以上ある場合は別紙にお書き下さい。

**Q2 平成18年度に実施された各事業についてお尋ねします**

Q2-1 「男性」に焦点を置いた講座を実施しましたか

( a . はい b . いいえ )

「a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
受講者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他( )
内容 (連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q2-2 「女性」に焦点を置いた講座を実施しましたか

( a . はい b . いいえ )

「a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
受講者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他( )
内容 (連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q2-3 「子ども」及び「青少年」を対象とした講座を実施しましたか

( a . はい b . いいえ )

「 a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
受講者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他( )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q2-4 「高齢者」を対象とした講座を実施しましたか

( a . はい b . いいえ )

「 a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
受講者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他( )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q2-5 親子参加を目的とした講座を実施しましたか

( a . はい b . いいえ )

「 a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
受講者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他( )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q 2-6 異世代間交流を目的とした講座を実施しましたか

( a . はい b . いいえ )

「 a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
受講者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他( )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q 2-7 団塊の世代を対象とした講座を実施しましたか

( a . はい b . いいえ )

「 a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
受講者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他( )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q 2-8 地域学など地域の特色を活かした講座を実施しましたか

( a . はい b . いいえ )

「 a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
受講者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他( )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

### Q3 生涯学習情報に関するデータベースの活用についてお尋ねします

Q3-1 生涯学習情報に関するデータベースをお持ちですか

( a . はい b . いいえ )

< Q3-1で「a . はい」と回答された方にお尋ねします >

Q3-2 データベースに登録されている生涯学習情報の種類を全て選んでください

( a . 学習情報 b . 講師・指導者情報 c . 団体・グループ情報  
d . その他 ( ) )

Q3-3 データベースの形態についてあてはまるものを選んでください

( a . Web 上に掲載していて外部から検索できる  
b . Web 上に掲載しているが外部から検索できない c . Web 上に掲載していない )

Q3-4 データベースに登録されている生涯学習情報(講師・指導者情報)を活かした講座を実施したことがありますか

( a . はい b . いいえ )

「a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
参加者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他( )
内容(連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

### Q4 主として人財活用のために、貴施設が取り組んでいる内容についてお尋ねします

Q4-1 現在、貴施設または地域で、人財活用を目的とした取り組みをおこなっていますか  
例) ボランティアが講師を務める講座の開催

「一時預かり」などの子育てボランティア 等

a . はい	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 60px;">           概要         </div>
b . いいえ	

Q 4-2 ボランティアの養成を目的とした講座を実施しましたか  
 ( a . はい          b . いいえ )

「 a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
参加者数	
講座の形式	a . 講演   b . 研修   c . 体験   d . ものづくり   e . その他(          )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q 4-3 資格取得を目的とした講座を実施しましたか  
 ( a . はい          b . いいえ )

「 a . はい」と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
参加者数	
講座の形式	a . 講演   b . 研修   c . 体験   d . ものづくり   e . その他(          )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q 4-4 既に活動している人財の更なる育成 ( スキルアップ等 ) を目的とした講座を  
 実施しましたか  
 ( a . はい          b . いいえ )

「 a . はい 」 と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
参加者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他 ( )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください )	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

Q 4-5 すでに活動している地域の団体・グループと連携・協働した講座を実施しましたか  
( a . はい b . いいえ )

「 a . はい 」 と回答された方のみ詳しくお書きください

事業名	
参加者数	
講座の形式	a . 講演 b . 研修 c . 体験 d . ものづくり e . その他 ( )
内容 ( 連続講座の場合は各回の内容についてお書きください )	

講座の内容の分かるチラシなどがあれば添付してください

< Q 4-2 ~ Q 4-5 で 1 つ以上 「 はい 」 と回答された方にお尋ねします >

Q 4-6 これまでに実施された講座を受講された方々の学習成果を、活用できる機会の創出  
に取り組んでいますか。または今後取り組んでいこうと考えていますか  
( a . はい b . いいえ )

( Q 4-6 で 「 はい 」 と回答された方にお尋ねします )

Q 4-7-1 すでに取り組んでいる方は、その内容について詳しくお答え下さい

内容
----

Q 4-7-2 今後、どのような方法で人財活用を図っていくか、具体案があれば詳しくお書きください

内容
----

( Q 4-1 および Q 4-6 で「いいえ」と回答された方にお尋ねします )

Q 4-8 取り組むことを困難にしている具体的な理由があればお答えください

内容
----

## Q 5 貴施設についてお尋ねします

Q 5-1 公立施設の方にお尋ねします

運用形態についてお聞かせください

( a . 直営                      b . 委託                      c . 委託 ( 指定管理 )                      )

Q 5-2 平成 1 8 年度職員数をお聞かせください

( 事業担当                      名、施設管理                      名、その他                      名、計                      名 )

Q 5-3 平成 1 8 年度の稼働日数をお聞かせください

(                      日間 / 年 )

Q 5-4 平成 1 8 年度の実施講座数 ( 自主事業 ) と受講者数についてお聞かせください

( 講座数                      、                      受講者数                      名 )

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

別紙

( Q - )

事業名	
受講者数	
講座の形式	a .講演 b .研修 c .体験 d .ものづくり e .その他( )
内容 (連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

( Q - )

事業名	
受講者数	
講座の形式	a .講演 b .研修 c .体験 d .ものづくり e .その他( )
内容 (連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

( Q - )

事業名	
受講者数	
講座の形式	a .講演 b .研修 c .体験 d .ものづくり e .その他( )
内容 (連続講座の場合は各回の内容についてお書きください)	

今回この調査にご協力いただいた15施設

- ・伊勢市生涯学習センター いせトピア
- ・伊勢市立小俣図書館
- ・特定非営利活動法人 五十鈴塾
- ・紀宝町生涯学習センター まなびの郷
- ・桑名市長島ふれあい学習館
- ・斎宮歴史博物館
- ・財団法人 伊賀市文化都市協会（史跡旧崇廣堂）
- ・鈴鹿市考古博物館
- ・名張公民館
- ・東長島公民館
- ・藤原岳自然科学館
- ・松阪市嬉野生涯学習センター
- ・三重県立熊野少年自然の家
- ・みえこどもの城
- ・四日市市 なやプラザ

「男性」に焦点を置いた講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
特定非営利活動 法人 五十鈴塾	古文書を読む など歴 史物	20～30名	講演	とはずがたり・北畠一族の興亡など

「女性」に焦点を置いた講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
特定非営利活動 法人 五十鈴塾	季節ごとの茶会・女正 月など	20～30名	体験	
名張公民館	ネイルケア&アート講 座	12名	研修	簡単な爪のお手入れとマニキュアの塗り 方をプロの先生に習います。 全6回の講座ですが、繰り返し実習に時間 を使っていました。

「子ども」及び「青少年」を対象とした講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
伊勢市生涯学習 センター いせ トピア	いせトピア センター 講座 子ども図画工 作・子ども手芸教室		体験	

伊勢市立小俣図書館	おはなし会	163名	その他 (読み聞かせ)	幼児から小学校低学年を対象に読み聞かせを行っている。ビッグブックやパネルシアターなどで、本に対する関心を高めるよう努めている。
特定非営利活動法人 五十鈴塾	親子でマナー	20~30名	体験	親子でマナーを勉強。戸の開け方、ざぶとんの扱い、言葉遣い。お茶の運び方、お礼の仕方など。
紀宝町生涯学習センター 「まなびの郷」	児童合唱教室	29人	その他	合唱教室
桑名市長島ふれあい学習館	児童パソコン体験コーナー		体験	様々な学習用ソフトをインストールしたデスクトップパソコン10台を設置し、小学生以下の子を対象として無料にて使用していただく。
斎宮歴史博物館	夏休みこども斎宮跡発掘体験教室	25名	体験、講座	小中学生及び保護者を対象に、2日間にわたり斎宮跡の発掘調査を体験
鈴鹿市考古博物館	夏休み子ども体験博物館	4,355名	体験、ものづくり	勾玉作り、土笛・埴輪作り、わらじ作り、博物館裏側探検隊ガイドツアー、縄文時代の布(アングン)作り、火おこし、花びらで染めよう、古墳時代のアクセサリー作り
藤原岳自然博物館	夏休みの自然研究の仕方を聞く会	71名	その他 (個別相談)	標本の採集方法や作り方、自然研究の仕方の相談について指導します。
松阪市嬉野生涯学習センター	夏休みこども教室	117人	ものづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>木工教室(メモスタンド作り)</li> <li>牛乳パックでホットケーキ作り</li> <li>藍染め教室</li> </ul>
三重県立熊野少年自然の家	熊野サイエンススクール、わくわく熊野自然塾、チャレンジキャンプなど	約360名	講演、研修、体験、ものづくり	
三重県立みえこどもの城	みえこどもの城 全ての事業254企画	合計 91,500名	体験、ものづくり、その他 (観賞)	

#### 「高齢者」を対象とした講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
伊勢市生涯学習センター いせトピア	いせトピア センター講座 パソコンの基礎を学ぶ、ワードの基礎を学ぶ		体験	基礎は、電源の入れ方・マウスの使い方から覚えたいという方を対象としており、ワードは基礎から罫線の引き方まで学習します。

紀宝町生涯学習センター 「まなびの郷」	春秋学級	85人	講演、研修、体験、ものづくり	教養講座・製作・軽スポーツ・社会見学・人権学習など
史跡旧崇廣堂	古文書教室、漢文学教室	37名	講演	4回1講座で実施。講師の用意するレジュメにより、古文書の読み方、当時の時代風景などを学ぶ。

### 親子参加を目的とした講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
伊勢市生涯学習センター いせトピア	週末子どもチャレンジ教室		体験	
伊勢市立小俣図書館	赤ちゃんおはなし会	215名	その他 (読み聞かせ)	対象が赤ちゃんなので、母親に対する絵本紹介および読み聞かせ指導として行っている。平成18年度は10回行い、215名の参加があった。
特定非営利活動法人 五十鈴塾	親子でマナー「子ども」及び「青少年」を対象とした講座と同じ			
桑名市長島ふれあい学習館	クリスマスコンサート	200名	その他	
斎宮歴史博物館	梅干作り教室	43名	講演、ものづくり	地域の名産を生かし、また学校と連携するなどして、親子一緒にものづくり体験ができる講座を開催した。
藤原岳自然博物館	親と子の自然教室	34名	体験	青川の植物や昆虫・岩石や地層の観察を行います。
松阪市嬉野生涯学習センター	夏休みこども教室「子ども」及び「青少年」を対象とした講座と同じ			
三重県立熊野少年自然の家	親子クラフト教室等	約300名	体験、ものづくり	
三重県立みえこどもの城	イベントホール、舞台スペース事業 計78企画 シアター事業「プラネタリウム倶楽部」全4回 プラネタリウムコンサート全3回	47,003名 327名 381名	体験、その他 (観賞)	

### 異世代間交流を目的とした講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
桑名市長島 ふれあい学習館	陶芸教室	58名	ものづくり	半年全10回(1回2時間)の講座。この期間で講師指導のもと4作品前後を創り上げる。
名張公民館	ヒップホップ講座	28名	体験	全6回の講座とともに、ストレッチ10分、基本のリズムのとりかたとステップ10分、ダンスの振り付け20分(毎回違う振り付けで)

### 団塊の世代を対象とした講座

なし

### 地域学など地域の特色を活かした講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
伊勢市生涯学習 センター いせトピア	いせトピア センター 講座 参宮道中記			
特定非営利活動法 人 五十鈴塾	伊勢神宮に関する講 座、食文化、まつり	20~40名	講演、体験、 ものづくり	神宮のまつり、遷宮の年、125社めぐり、伊勢の風習、伊勢志摩のまつりに出かける、郷土料理をつくる、など。
伊勢市立 小俣図書館	創作劇	41名	体験	地元的话题を盛り込んだオリジナル脚本で、小学生が1つの劇を演じることで、地域への関心を高めたり、協力して何かを作り上げることの大切さを学ぶ。
斎宮歴史博物館	歴史講座「特別展を1 0倍楽しむ」	363名	講演	歴史講座は斎宮周辺の荘園や仏像、公民館講座は有名なさい斎王についてをテーマとした。
史跡旧崇廣堂	古文書教室	37名	講演	歴史情緒あふれる江戸時代の藩校「史跡旧崇廣堂」で、歴史資料をもとに「古文書学」を学ぶ。
鈴鹿市考古博物館	企画展開連講座「古代 の鈴鹿」	80名	講演	
藤原岳自然博物館	植物標本をつくろう	14名	研修、体験	植物を採集し、その標本づくりと保存方法を学ぶ。
三重県立熊野少年 自然の家	熊野自然塾		講演、研修、 体験	熊野地域学、自然体験等

三重県立みえ こどもの城	ホテル観察会	37名	体験	名張市国津地区でのホテル観察を中心とした交流事業
-----------------	--------	-----	----	--------------------------

- 人財育成 -

人財活用を目的とした取り組み

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
伊勢市立 小俣図書館				ボランティア団体による、おはなし会の開催や研修会の開催
紀宝町生涯学習センター 「まなびの郷」				まなびの郷運営サポーター（ボランティア）による、講座の開催
桑名市長島 ふれあい学習館				星見会、天文講座、天文教室
斎宮歴史博物館				斎宮（いつきのみや）ガイドボランティアによる史跡内ボランティアガイドの実施
名張公民館				世代間交流を目的とした施設の開設の準備とボランティア
三重県立熊野少年 自然の家				特に意識的な講座はないが、自然体験の中からボランティアガイド等が養成されている。
三重県立みえ こどもの城				みえボラと遊ぼう！2006...ボランティア主催のイベントで簡単工作・折り紙・ゲームなどを実施
四日市市 なやプラザ				NPOスキルアップ講座

ボランティアの養成を目的とした講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
斎宮歴史博物館	斎宮ガイドボランティア養成講座	10名	講演	明和町観光協会傘下の斎宮ガイドボランティアと協力し、新人養成のための講座を行った。対象は、入会希望者、内容はボランティア解説の内容、現場体験など実践的なものである。
鈴鹿市考古博物館	歴史講座	140名	講演、研修、ものづくり	郷土の歴史や文化に対する認識を深めてもらうため開催。鈴鹿市内をはじめ三重県内の歴史や文化に関する話題を、専門的な講師や当館職員が最新の研究成果に基づいてわかりやすくお話をする。

### 資格取得を目的とした講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
三重県立熊野少年 自然の家	介護福祉士受験支援 講座	20～30名	研修	

### すでに活動している人材の更なる育成（スキルアップ）を目的とした講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
斎宮歴史博物館	斎宮ガイドボランティア 定例会議	20名	研修	講座ではない（非公開）が、ボランティアのスキルアップのための定例情報交換、勉強会を行っている。
四日市市なや プラザ	マネジメントスキルア ップ講座	10名	研修	

### すでに活動している地域の団体・グループと連携・協働した講座

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
特定非営利活動 法人 五十鈴塾	企業が企画している、 まつりや市などに合わ せて展示や講演	20～40名	講演、体験、 ものづくり	ひなまつり 貝合せの展示、夏待ち祭り ゆかたなどの展示、節分 節分の由来の講 座など、他多数。
紀宝町生涯学習 センター 「まなびの郷」	昔の遊び体験&電気の たいけんをしよう	69名	体験	竹馬・竹とんぼ・ゴムとび・こま回しなど の体験と関西電力による電気の実験
斎宮歴史博物館	博物館友の会 くれた け講座	123名	講演	友の会、ボランティア等館関係者や地域で 活動するグループと連携して講座を開催 した。
三重県立みえ こどもの城	ものづくりフェア	316名	体験、ものづ くり	技能士会との協働事業
四日市市 なやプラザ	NPO会計講座	15名	研修	

### 講座受講者の学習成果を活用できる機会の創出への取り組み

実施した施設	内 容
特定非営利活動 法人 五十鈴塾	書道や篆刻、折り紙など、続けて講座に参加している人のために発表展示会を開催している。
斎宮歴史博物館	明日の斎宮を考える会など地域参加型プロジェクトに活用できるように取り組んでいる。
鈴鹿市考古博物 館	「夏休み子ども体験博物館」で勾玉・土笛作りなどの講師ボランティアをしていただいた。

四日市市 なやプラザ	・なやプラザの経理 ・NPO団体の会計処理の手伝い
紀宝町生涯学習 センター 「まなびの郷」	講座受講者によるサークルの設立

その他（別紙）

実施した施設	事業名	受講者数	講座形式	内容
伊勢市立 小俣図書館	パソコン教室	316名	研修	初心者コース、ワード基礎、ワード応用、エクセル基礎、エクセル応用の5コースを年4回、合計20講座開催している。
伊勢市立 小俣図書館	パソコン一般開放	338名	研修	名称は、一般開放であるが、内容は講師1名が常駐し、受講者に個別指導を行うものである。(平成19年度はパソコン個別学習と名称を改めた) 毎週木曜日13～17時に、利用登録をした者を対象に行っている。
紀宝町生涯学習セ ンター 「まなびの郷」	英語に親しむ教室(低 学年・一般向け)	低学年14名 一般 13名	研修	初心者向け英語教室
紀宝町生涯学習セ ンター 「まなびの郷」	七夕飾りをしよう	延べ53人(4 回)	ものづくり	作品はロビーに展示や持ち帰り
紀宝町生涯学習セ ンター 「まなびの郷」	まなびの郷合唱教室	延べ118人 (11回)	体験	サポーターまつりで発表
紀宝町生涯学習セ ンター 「まなびの郷」	手編み教室	延べ43人(4 回)	体験	ベストを作成
紀宝町生涯学習セ ンター 「まなびの郷」	作ってあそぼれ	94人	ものづくり	携帯ストラップ、わらびもち、竹とんぼ、お手玉、ペットボトルロケットなど
紀宝町生涯学習セ ンター 「まなびの郷」	小倉百人一首教室	延べ69人(7 回)	体験	
紀宝町生涯学習セ ンター 「まなびの郷」	クリスマスイルミネ ーション飾り	12人	ものづくり	クリスマスリースなどの作成

紀宝町生涯学習センター 「まなびの郷」	サポーターまつり	131人	体験	サポーター結成3周年を記念して開催。年表、子どもサポーターの発表・工作物の展示・餅つき・合唱教室の発表など
紀宝町生涯学習センター 「まなびの郷」	チョコレートを作る	28人	ものづくり	
桑名市長島ふれあい学習館 「子ども」...	プラネタリウム上映		その他	プラネタリウムを平日2回、土・日・祝日4回をベースとして毎日上映。対象者は特定せず、幅広い層に観覧していただく。小学校の授業や社会見学にも利用していただく。
桑名市長島ふれあい学習館 親子参加	クリスマスアニメ上映会	100名	その他	子どもたち同士や親子で楽しめるクリスマスアニメ上映会。三重県視聴覚ライブラリーにてDVDをお借りし開催。
桑名市長島ふれあい学習館 親子参加	七夕企画	80名	その他	併設する図書館との合同企画。七夕にあわせてプラネタリウムで天の川を見たり、図書館職員による読み聞かせを行い七夕について学習する。こどもたち同士や親子を対象とする。
桑名市長島ふれあい学習館 異世代間交流	作品展示室・ギャラリー企画展		その他	作品展示室・ギャラリーを使用しての絵画や写真、陶芸など様々な展示を開催。
斎宮歴史博物館 「こども」	町内小学校出前授業	259名	講演	町内6小学校に斎宮についての出前授業を実施(6年生対象)
斎宮歴史博物館 親子参加	栗まんじゅう作り教室	43名	講演、ものづくり	地域の名産を生かし、また学校と連携するなどして、親子一緒にものづくり体験ができる講座を開催した。
斎宮歴史博物館 親子参加	古代弁当作り教室	24名	講演、ものづくり	地域の名産を生かし、また学校と連携するなどして、親子一緒にものづくり体験ができる講座を開催した。
斎宮歴史博物館 地域学	明和町中央公民館斎宮講座	300名	講演	古代～中世の斎宮周辺の歴史についての講座館内、町内で実施した。
斎宮歴史博物館 団体・グループと連携	絵馬レクチャー講座	154名	講演	生涯学習センターとの連携事業
斎宮歴史博物館 団体・グループと連携	竹の文化講座	101名	講演	友の会、ボランティア等館関係者や地域で活動するグループと連携して講座を開催した。

史跡旧崇廣堂	ジャズを楽しむ昼下がりがりin崇廣堂	111名	その他 (コンサート)	崇廣堂の講堂で、季節の花々(紫陽花)に囲まれたジャズコンサート
史跡旧崇廣堂	津軽三味線のゆうべin崇廣堂	138名	その他 (コンサート)	秋の名月を見ながら津軽三味線・民謡を鑑賞するコンサート
鈴鹿市考古博物館 地域学	入門講座「ヤマトタケルの考古学」	90名	講演	
藤原岳自然博物館 地域学	甲虫の標本をつくらう	18名	講演、体験	甲虫を採集し、その標本づくりと保存方法を学びます。
藤原岳自然博物館 地域学	クモを調べる会	20名	講演、体験	クモの名前を調べ、驚くべき生活や習性を観察します。
藤原岳自然博物館 地域学	でんでんむしを探そう	6名	講演、体験	石灰岩には多くの珍しい陸貝が生息しています。不思議な生活・習性を観察します。
藤原岳自然博物館 地域学	チョウ・トンボの標本をつくらう	12名	講演、体験	チョウ・トンボを採集し標本づくりと保存方法を学びます。
三重県立みえこどもの城 地域学	海の生き物観察会	27名	体験	松阪市松名瀬海岸において地域の公民館との交流事業
三重県立みえこどもの城 地域学	化石採集&標本づくり	57名	体験、ものづくり	一志層群での化石採集
三重県立みえこどもの城 団体・グループと連携...	舞台スペース事業 72企画	13,084名	観賞	マジックショー、人形劇、コンサートなど

# 県内施設への調査用紙

三重県生涯学習センター

施設の運用形態についてお聞かせください。

自治体直営（県市町）      委託      委託（指定管理）      民間企業

平成18年度の職員数についてお聞かせください。

事業担当\_\_名      施設管理\_\_名      その他\_\_名      計\_\_名

施設の利用目的についてお聞かせください。

自主事業（講座等）      貸館事業（会場）

自主事業を行っている施設へお聞きします。（下枠内）

平成18年度の施設稼働日数についてお聞かせください。

（      日間 / 年）

平成18年度の実施講座数（自主事業）と受講者数についてお聞かせください。

（講座数      、      受講者数      名）

自主事業の内容についてお聞かせください。（複数回答可）

講座      研修      映画会      展示      発表会

平成18年度に他団体との連携事業を行っていますか？

はい      いいえ

今後の事業等の連携について三重県生涯学習センターへの希望があればお書きください

（複数回答可）

生涯学習情報（講師、イベント等）提供の充実化

講座や研修、映画会など学習機会の出前での提供

高等教育機関（大学・短期大学・高等専門学校）を含めた他団体とのコーディネート

学習相談（講師紹介、企画相談など）

その他      下記にご自由にお書きください。

ご回答ありがとうございました。同封の返信用封筒に更新用紙と共に封入し、ご返送ください。

平成19年度 調査研究事業報告書

「生涯学習施設における学習講座の実施状況と  
人財の活用に関する調査」

平成20年3月 発行

**編集発行** 三重県生涯学習センター  
**所在地** 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地  
**電話番号** (059) 233 - 1150 ・ 1151  
**F A X** (059) 233 - 1155  
**U R L** <http://www.center-mie.or.jp/manabi/>  
**監 修** 三重県教育委員会事務局 生涯学習室